

日本画材工業会 画材研究会Q&A集

平成 28 年 11 月 19 日（土）開催 於：京都社会福祉会館

目次

日本画絵具

— ナカガワ胡粉絵具株式会社 —

8 - 12p

- Q001. 胡粉の等級について
- Q002. 胡粉は自分で作る事はできますか？
胡粉の等級分けされているものの差は何ですか？
荒い・細かい・白さの分類方法について
- Q003. 下地用の胡粉 むいている物・いない物は？
- Q004. 盛上胡粉の粒子は昔使われていた物より細かいですか？
- Q005. 胡粉の百たたきは必要ですか？
- Q006. 「都の雪」で使用している膠は何ですか？
- Q007. 「都の雪」の上澄みは混ぜて使っても良いですか？
- Q008. 粉の胡粉とチューブ胡粉両方使っても良いですか？
- Q009. 練り胡粉と膠入り胡粉の膠濃度(%)と成分について
- Q010. ドーサと胡粉の相性について
- Q011. すでに膠の混ざった胡粉と一般の胡粉の違い
- Q012. 胡粉上から大量の水をかけても問題ないでしょうか？
- Q013. 胡粉と石膏を膠で混ぜて盛り上げた時、ヒビ割れが起きました。石膏は混ぜない方が良いでしょうでしょうか？
- Q014. 胡粉の発色・岩絵具と合わせる時の注意
- Q015. 胡粉の注意書きに「必ずマスクをして下さい」と書いているのはなぜですか？
- Q016. なぜ江戸時代からの石切水車の胡粉作りが、違う形に変わっていったのですか？
- Q017. 胡粉の製造現場の見学はできますか？
- Q018. 水干絵具とはなんですか？
- Q019. 天然の土絵具のなかで、現在在庫がない・土が手に入らないものは、今後入荷することはないのでしょうか？
- Q020. 水干絵具の色による溶きやすさの違いはなんですか？
- Q021. 天然岩・新岩絵具・ロットによる色の違いについて
- Q022. 天然絵具は廃番することはありますか？
- Q023. 番手の異なる岩絵具を同じ瓶に入れてしまった時の分級方法
- Q024. 岩絵具を使う時、番目の違いによって膠の量を変えた方が良いでしょうか？
- Q025. 白の中にどうしてもダマになる物があります
- Q026. 天然松葉緑青の色について
- Q027. 黄味の天然松葉緑青は何か混ぜていますか？
- Q028. 現在の辰砂は昔の辰砂と違いますか？
- Q029. 純紫金末について
- Q030. 朱を焼く時はどうしたらいいですか？
- Q031. 象牙色は本物の象牙を使っているのですか？
- Q032. 弁柄の色みの幅について
- Q033. 原料はどの様にして調べる事が出来ますか？
- Q034. アクリル絵具の上に岩絵具をのせる場合、何を糊材として使えば良いでしょうか？
- Q035. 人工顔料による筆切れの防止方法
- Q036. 箔の上に絵具が定着しやすくする為にコーティングするもの・その方法について
- Q037. 銀箔を焼く時、硫黄の粉末と液体とどちらが良いか、また、どう違うのでしょうか？
- Q038. 板絵をする時の下地について

- Q039. 軟水と硬水の違い
- Q040. 墨と硯の相性→すべったり吸付いたりする差
- Q041. 紙にのる墨と入る墨
- Q042. 今の煤と昔の煤の違い
- Q043. 青墨の墨液を塗って乾いた上から磨った松煙墨を塗る際
混ざりすぎないようにする方法

- Q044. 絵画用の墨と書道用の墨の材料や製造方法などの違い
- Q045. 膠や油分による照りのない墨はどんな物がありますか？
- Q046. 大きく膠を減らした墨は製造していますか？
- Q047. 墨によって持った時の重さが違うのはなぜですか？

油系絵具

- Q048. マットな表情にするためアキーラを使っているのですが、
下層が透けてしまいます
- Q049. アキーラの上にアクリル絵具を重ねられますか？
- Q050. アキーラはテンペラ技法での使用は可能でしょうか？
- Q051. アキーラはどのような絵具に塗重ねられますか？
- Q052. アキーラを使った筆(羊毛)を置いて問題ない日数、
洗い方について
- Q053. アキーラの3D スムースペーストの上に油絵具をのせて
も大丈夫でしょうか？
- Q054. アキーラと油彩の描き重ねは出来ますか？
- Q055. アキーラを早く乾燥させる方法
- Q056. アキーラ専用トップコートを美しく塗る方法
- Q057. 服に油絵具がついた場合、一番取れやすい方法
- Q058. アクリル絵具の上に油絵具を重ねることが出来ますか？

- Q059. 油彩で筆跡を残さない方法
- Q060. 紙に塗った油絵具は乾かないのでしょうか？
- Q061. 速乾性を高めるオイルの調合について
- Q062. キレのある油絵具の自作方法
- Q063. 粘度が強い油絵具を作るために必要な素材と方法
- Q064. 油絵具で岩絵具の乳白した感じは出せますか？
- Q065. 油絵具のホワイトの種類、使い分けについて
- Q066. ダンマル樹脂のひび割れない使い方
- Q067. 透明水彩にマチエールを付ける方法
- Q068. 筆の根元に固まった絵具の戻し方
- Q069. ジェッソをキャンバスの地塗りに使うとき、どのくらい
の濃度で何回重ねたら良いのでしょうか？
- Q070. ウサギ膠はどこどの様なものを輸入していますか？
- Q071. カゼインテンペラの一番簡単な作り方

- Q072. 油彩で筆跡が極力残らない画面を作るコツ
- Q073. リクインを使って描いたときにも黄変はおきますか？
- Q074. リクインの経年変化による劣化はありますか？
- Q075. 黄変しない様に油彩を描くにはどうしたら良いですか？
- Q076. ホルバインの製品で黄変しにくく、乾きやすいオイル
- Q077. 層に厚みを持たせるときに透明で重量感がでる素材はありますか？
- Q078. ハンスメディウムの製造方法
- Q079. 藤田嗣治と同じ描画法をとって制作していますが、オイルの乾燥速度が非常に遅くて困っています
- Q080. 油絵具でアクリルのクリスタルジェルメディウムの様な艶と光沢感を出すにはどうしたら良いですか？
- Q081. リンシードの乾燥を速める方法
- Q082. サンシックスドオイルの、自作のものメーカーで作られたものとの違い
- Q083. 種類の異なるオイルを重ねると弊害の出るものはありますか？
- Q084. ペンチングオイルとターペントインの2種で描き進めると、途中ではじくような感じがします
- Q085. ホルバインの画用液に蜜蝋を混ぜても大丈夫ですか？
- Q086. ラピッドメディウムの上からダンマルワニスを塗っても大丈夫ですか？
- Q087. ジェルメディウムに松煙墨の粉を混ぜても良いですか？
- Q088. ホルバインのバーニッシュのグロスとサテンの違い
- Q089. サテンバーニッシュをきれいに吹きかけるコツ
- Q090. マットメディウムを霧吹きで噴くと、白い物が付きます
- Q091. 食用オリーブオイルを筆洗液に使用することについて、また、筆に優しい筆洗器はありますか？
- Q092. 岩絵の具の上に油彩を重ねても問題ないでしょうか？
- Q093. アクリル絵具の上に岩絵の具を使いたいのですが、何でくっつければ良いでしょうか？
- Q094. ホワイトベースの下地(チタン白)で、最高何回まで重ねても大丈夫でしょうか？
- Q095. パネルに何も引かずにホワイトベースを乗せても大丈夫ですか？
- Q096. 油絵の下地として、ジェッソとアブソルバンでは、どちらがお薦めですか。またどの様に違いますが？
- Q097. 綿布を貼ったパネルに、アブソルバンを直接塗っても良いですか？
- Q098. アブソルバンは石膏地と同様の下地になりますか？
- Q099. 黒い顔料を混ぜて黒い下地を作る事は可能でしょうか？
- Q100. ムードンやポローニア石膏よりも光沢の出る下地
- Q101. 石膏の違いについて
- Q102. 石膏とムードンの違いについて
- Q103. (ムードン+膠水)で作った下地と(炭酸カルシウム+チタン白+膠水)で作った下地を比較すると前者の方が暗く感じるのはなぜですか？
- Q104. ランプブラックのテカリについて教えてください
- Q105. アリザリンレーキの様な透明色の使い方について
- Q106. 顔料ペーストを膠で絹本に使う場合、どのくらいの厚さまで塗っても大丈夫ですか？
- Q107. 箔(銀やアルミ)の上から顔料ペーストなどを掛けて色箔の様にさせる方法
- Q108. 箔の上に油彩を重ねても問題ないでしょうか？
- Q109. 石塑粘土の上に塗る仕上げ剤を探しています

- | | |
|------------------------------------|---|
| Q110. 顔料ベースのイエローオーカーが少し固めなのはなぜですか？ | Q111. どうしてマツダ・スーパー油絵具の色はあんなにも白く、重いのですか？ |
| Q112. 光沢感のあるバロックのような絵画をつくりたい | Q118. 画面のツヤを最後に均一にしたい |
| Q113. 油絵で水彩のようにぼかしたような描き方をしてみたい | Q119. 寒冷紗の上に胡粉を塗り、膠で貼った箔の上に油を使って大丈夫ですか？ |
| Q114. 色によって乾燥速度が違うのは何故ですか？ | Q120. 箔の劣化を抑えるのに良いメジウムは何ですか？ |
| Q115. ミツロウの入っている画用液の特徴と使い方 | Q121. 箔をコーティングした上から岩絵具などをのせる場合、箔があばれないコーティング方法はありますか？ |
| Q116. キャンバスの生地の色味を活かす透明の下地材がほしい | |
| Q117. 油絵具と岩絵具の具を同時に併用することはできますか？ | |

水彩絵具

- | | |
|--|---|
| Q122. クリスタルジェルメディウム単体やそれを混ぜたアクリル絵具を重ねることは剥離の危険性がありますか？ | Q125. 複数のアクリル絵具を混によって彩度が低くなることを防ぐには、やはり他色で補完すべきでしょうか？ |
| Q123. クリスタルバーニッシュの上に絵具を重ねることは可能ですか？ | Q126. アクリル絵具の特徴を教えてください |
| Q124. 「JAPANESE COLOUR」と普通の絵具の質感の違いは何ですか？ | Q127. 油絵具の下地にアクリル絵具を使用した時、剥離するとはありますか？ |

- | | |
|---|-------------------------------------|
| Q128. 隠蔽力の強いホワイトは何ですか？ | Q133. おもしろい質感が欲しい |
| Q129. 基本三原色でカバーするのは難しいですか？ | Q134. アクリル絵具の上に油絵具は使えますか？ |
| Q130. ジェルメディウムを使ったブックカバーを作ったのですが、問題点などがあれば教えてください | Q135. アクリル絵具は乾きが早すぎます |
| Q131. アクリルガッシュと水の黄金比を教えてください | Q136. アクリル絵具の上にクレパス(オイルパステル)はのりますか？ |
| Q132. つや消しのワニスがありますか？ | |

- | | |
|---|---|
| Q137. 顔料ペーストを漆喰に混ぜることで、漆喰生地の着色は可能ですか？ | Q145. エフェクト顔料を顔料ペーストのような形状にできないでしょうか？ |
| Q138. 一度、膠と混ぜた顔料ペーストを次の日に使っても大丈夫ですか？ | Q146. エフェクト顔料の上からクリアーを掛けると効果が薄れてしまう |
| Q139. 顔料ペーストを、粉の顔料のように使って水系・油系の絵具を作ることはできますか？ | Q147. アブソルバンをアクリル兼用の麻キャンバスに塗って使用できますか？ |
| Q140. 顔料ペースト以外で、Holbein が扱っている顔料はありますか？ 特に「黒」の顔料で | Q148. アブソルバンをパネルに塗布する場合、綿布などを貼る方が良いでしょうか？ |
| Q141. 顔料ペーストと糊剤の混合比で、やっではいけない割合はあるのでしょうか？ | Q149. アクリル作品をサンダーでヤスリ掛けしても問題ありませんか？ |
| Q142. 顔料ペーストを使うと出るツヤを抑えたい | Q150. アクリル色彩のビニール感にどうしても馴染めません |
| Q143. スプレーのような柔らかい表現ができるアクリル絵具が欲しいです | Q151. メディウムを入れる意外にアクリル絵具の乾燥を早める方法はありますか？ |
| Q144. エフェクト顔料の耐光性は？ また、定着はどうでしょうか？ | Q152. メディウムを使用した画面にサンダーを掛けるとペロペロの状態になってしまった |

基底材

- | | |
|-------------------------------------|---------------------------------|
| Q153. 和紙の上に油彩を使った場合の耐久性は？ | Q157. 鳥の子紙はどうしてドーサ引きしなくて良いのですか？ |
| Q154. 機械抄きに必要パルプを入れた場合、経年劣化は起こりますか？ | Q158. 楮、三椏、雁皮の他に原料の種類はありますか？ |
| Q155. 鉛筆等の描画に向いている和紙は？ | Q159. 葉っぱや雑草でも紙を作れますか？ |
| Q156. 高知麻紙の代用が可能な紙はありますか？ | Q160. 泥間合紙とはどのような紙ですか？ |
| | Q161. 大きいサイズの箔打ち紙を買うことは出来ますか？ |

— ホルバイン画材株式会社 —

36 - 37p

Q162. ホアキン・ソローリャが使っていたキャンバスが欲しい

Q163. 紙の上に油絵具を使用しても大丈夫ですか？

Q164. 既に水張りされているような商品はありますか？

Q165. 細目のキャンバスを張っていると破れた。丈夫なキャンバスはありませんか？品質の見分け方も教えてほしい

— マルオカ工業株式会社 —

38 -39p

Q166. パネルと木枠ではどちらが描きやすいですか？

Q167. パネルに綿布を直接貼り込んでも大丈夫ですか？

Q168. 綿布に直接絵が描けますか？

Q169. パネルを使う人のほうが多いですか？

Q170. ユニペーパーって何ですか？

Q171. 絵具がのると作品自体が重くなるので、軽い支持体が欲しい

— マルマン株式会社 —

40p

Q172. ボード状の紙に茶色のしみがたくさん出てきました

Q173. 展示会に出す素描やドローイングにスケッチブックの紙は適していますか？

Q174. 変更以前のエスキース帳の紙を買うことはできますか？

Q175. 洋紙はどれくらいもちますか？(保存性)

— 株式会社ミューズ —

41-43p

Q176. 水彩紙と版画用紙の違いは何ですか？

Q177. 水彩絵の具とペン両方に合う紙を教えてください

Q178. 和紙の修復は和紙で行われますが、洋紙の場合はどうやって保存されていくのでしょうか？

Q179. 保存箱とはどういうものですか？

筆・刷毛

— 株式会社中里 —

44-46p

Q180. 円山派の画家が使っていた分厚い刷毛を探しています

Q181. 人工岩絵具を扱う際、刷毛や筆の毛が切れます

Q182. 黒豚唐刷毛のもう少し厚めのものはありませんか？

Q183. 一番細い線が描けて含みの良い筆を教えてください

Q184. 書道筆の様な大きい丸筆はありませんか？

Q185. 油彩用に日本画の刷毛を使っています。他におすすめは
ありませんか？

Q186. 筆・刷毛の洗浄後、乾かした後に毛先固まってしまう原
因は何でしょうか？

Q187. 洗浄液ではなく、石鹼だけで洗浄しても大丈夫ですか？

Q188. 超極細筆の洗浄の仕方

Q189. 山馬刷毛の他ののはけとの違いは？

Q190. 洗い方について。シャンプーは使用するべきですか？

Q191. 油絵の制作にも日本画の筆を使用しても大丈夫ですか？
消耗の度合いは異なりますか？

Q192. 筆の選び方。勢いのある線を描くには？

Q193. 根元に残った墨の処理は？

— 株式会社名村大成堂 —

47p

Q194. ぼかし筆より大きいものはありますか？

Q195. ナイロン毛は日本画で使用しても大丈夫ですか？
耐久性は天然毛と比べてどうですか？

— ホルバイン画材株式会社 —

48p

Q196. マスキングインクに向いた筆はありますか？

Q197. マングースに代わる筆を知りたいです

日本画絵具

ナカガワ胡粉絵具株式会社

(Q 001 - 038)

Q001. 胡粉の等級について

A001. 胡粉は、いたばがきを10～15年以上風化させたものを原料としています。

いたばがきは、二枚貝で、上蓋の方が下蓋（身）より上質の胡粉がとれます。特に、大振肉厚な上蓋のみを使ったものが、最上級の胡粉「金鳳」となります。等級は、使用する部位の割合によって決まります。等級の低い胡粉を摺っても等級が上がるわけではありません。金鳳、白寿、白雪、雪、松印の順に等級があります。

Q002. 胡粉は自分で作る事はできますか？

胡粉の等級分けされているものの差は何ですか？

荒い・細かい・白さの分類方法について

A002. 貝殻を砕いてすりつぶせば「貝の粉」は作れますが、「胡粉」とは言えないかも知れません。

胡粉はイタボガキを10年以上天日で風化させた物から作られ、こうすることで定着力や白さが際立ちます。また、有機物が分解されることにより、絵具としての安定性が増します。イタボガキの大きく育った貝の蓋の部分だけを使った物が最上級の物となります。小さい物や下蓋の部分を使った物は等級が落ちます。等級の上の物ほど白く明度も高くなります。

Q003. 下地用の胡粉 むいている物・いない物は？

A003. 基本的にランクの低い物を下地用の胡粉としていますが、全て使用可能です。色を塗って隠れる場合、下地には等級の低いものを用いるのが一般的ですが、作者の方の自由ではあります。粒子の粗さは等級が異なっても同じです。等級は原料の牡蠣の貝殻の使用部位の違いです。

Q004. 盛上胡粉の粒子が昔使われていた物より細かいのでしょうか？

A004. 細かさは変わりません。

Q005. 胡粉の百たたきは必要か？

A005. (百叩き)胡粉の粒子間にある隙間に膠液を浸透させる為行います。胡粉団子の中の空気が抜け、膠液との絡みが強固なものとなります。小皿に少量溶く場合なら、指で胡粉と膠液を十分に練り合わせるだけでも大丈夫だと思われれます。

Q006. 「都の雪」で使用している膠は何ですか？

A006. チューブ胡粉「都の雪」に使用している膠は、播州粒膠です。透膠液・透礬水に使用している膠も同様です。

Q007. 「都の雪」の上澄みは混ぜて使っても良いですか？

A007. チューブ胡粉「都の雪」の上澄みの淡黄色の液体は顔料と混ぜ使用して頂いてもかまいません。胡粉がメディウムの中で沈殿した状態なので、練って使用して下さい。

Q008. 粉の胡粉とチューブ胡粉両方使っているのですが、大丈夫でしょうか？

A008. 大丈夫です。

Q009. 練り胡粉と膠入り胡粉の膠濃度(%)と、何膠が入っていますか？

A009. 水で薄める事を想定して約10%としています。「播州粒膠」(牛皮)を使用しています。

Q010. ドーサと胡粉の相性について

古典的な日本画の描き方として、にじみ止めにドーサを塗り胡粉を重ねて書き始めますが、作品の持ちの良さについてアルカリ性、酸性等の観点から詳しく知りたいです

A010. 和紙にドーサ引きする事により、紙は酸性となります。紙は酸性化により、劣化が速められるため、長期保存には適さなくなります。胡粉は弱アルカリ性なので、胡粉引きする事は、紙を中性に戻すという意味もあります。「白麗」はやや強目のアルカリ性に行っているため、ドーサ引きで酸性となっている紙が中和される時に完全中性となります。「白麗」は、ドーサ引きにて酸性化した紙を中性に戻す事も考え開発した商品です。

Q011. すでに膠の混ざった胡粉と一般の胡粉の違い

A011. 膠が混ざった物でも自身で混ぜた物でもほとんど違いはありません。

Q012. 胡粉上から大量の水をかけても問題ないでしょうか？

A012. 糊の問題なので水で胡粉自体に問題が起こる事はありません。

Q013. 胡粉と石膏を膠で混ぜて盛り上げた時、ヒビ割れ(はがれやすい)が起きました石膏は混ぜない方が良いでしょうか？

A013. 混ぜない方が良いでしょうかと思えます。乾く時の速さの違いから起こると思われるからです。盛上げ用の顔料など、例えば、方解末などを使用された方が良いでしょうかと思えます。

Q014. 胡粉の発色・岩絵具と合わせる時の注意

胡粉を厚塗りし、マスキングで抜き柄する事が多いのだが、紙への定着材(膠)との相性について重ね塗りについて

A014. 胡粉は膠を定着材とすることが最良であると思われまます。胡粉を重ねて塗る時は、一度に厚塗りすると剥落の原因となります。薄く塗り、乾いては重ね塗りすることを繰り返して厚みをだしていきます。

Q015. 胡粉の注意書きに「必ずマスクをして下さい」と書いているのは何故ですか？

A015. 粉塵が出る程多量の使用である場合や、定期的に大量に使用する機会の多い場合にはマスクをご使用下さい。胡粉自体が有毒な物質ではありません。粉体の取り扱いは、胡粉に限らず、マスク等の保護具を着用してください。

Q016. なぜ江戸時代からの石切水車の胡粉作りが、違う形に変わっていったのですか？

A016. 近代化に伴う動力としての電力の普及や、化学合成された顔料による胡粉の需要減などが考えられます。

Q017. 胡粉の製造現場の見学はできますか？

A017. 製造の現場ですので、単独での見学はお断りしています。学校単位、ゼミ単位など、グループでなら見学して頂けます。

Q018. 水干絵具とはなんですか？

A018. 古くは天然の土や粒子の粗い顔料を水簸精製した絵具で、泥絵具とも言いました。今は有機顔料、無機顔料、或いは胡粉ベースにそれらの顔料を加えて水簸精製した、人工的に作られた顔料の水干絵具もあります。

Q019. 天然の土絵具が好きで良く使用していますが、色によってはもう在庫が無い、土が手に入らないと言う話を聞き、とても残念でした。そういった物は新しく入荷する事はないのでしょうか？そして外国の土についてどのように絵具として製造されているのか教えて下さい

A019. 同じ色の土顔料を他で捜しますが手に入らない場合もあります。輸入した土顔料を水簸精製して絵具としています。

Q020. 水干絵具で特定の色（樺・黄等）が膠に溶く時、すりつぶしてもダマになる事が多いのですが、色によって溶きやすさが違うのは何故でしょうか？

A020. 顔料の細かさの為、再凝集している場合があります。水干絵具は色により粒子の細かさが異なり、微細なものは空気中の水分により再凝集します。胡粉がベースでない顔料だけを原料とした色の場合、粒子が細かく凝集しやすい傾向があり改良しています。

Q021. 天然岩・新岩絵具・ロットによる色の違い

A021. (天然)同種類の岩でも、その時々で多少の違いがあり、これにより色が多少異なる事があります。(新岩)原料の変化(廃番)等により同じ色が製造できない事もあります。出来るだけ色を近づけ製造するよう努めています。

Q022. 天然は廃番することもありますか？

A022. 天然は廃番する事もあります。新岩絵具もあり得ます。そうならぬ様に工夫していますが、やむを得ない時もあります。

Q023. 岩絵具の番手の異なる絵具を瓶に混ぜて入れてしまった時

A023. 番手の差が大きければフルイ等で分けられます。番手が近接しており粒子の大きさが近い時は、水簸分級をすれば分けられます。別の色を混ぜてしまい、比重が近い物同士だと難しいです。

Q024. 岩絵具を使う時、番目の違いによって膠の量を変えた方がいいでしょうか？(以前、荒目の絵具を12～13番ぐらいのものと同じぐらいの量や濃度で溶いた時定着しにくかったので)

A024. 粒子が細かい番手に比べ、粒子が粗い絵具には多めに膠液を加えます。10%膠水溶液の場合、5～8番あたりでは岩絵具に膠液を泥状になる程度に加えよく練ってから膠液と同量程度の水を加えて溶きます。細くなるにつれて膠液の割合を少なくしていきます。膠の濃度は標準的なものです。

Q025. 白の中どうしてもダマになる物があります

A025. 指で少量の膠液と練り込むように溶いてみてください。場合によっては朱を溶く時の様に皿を暖めながら溶きます。どうしてもほぐれにくい時は、アルコール(日本酒・エチルアルコール等)を1滴落とすことをお勧めします。

Q026. 天然松葉緑青の色について

A026. 産地と色味で分けています。お店からリクエストがあれば(黄味・青味・緑味)対応しています。

Q027. 黄味の天然松葉緑青は何か混ぜていますか？

A027. 鉱脈の異なる黄味の孔雀石を用います。その他の種類の顔料を混色する事はありません。

Q028. 現在の辰砂は昔の辰砂と違いますか？

A028. 現在の天然辰砂は、岩からではなく、一旦それを精製した原料を使用しております。成分の硫化水銀は昔と同様です。

Q029. 純紫金末について教えてください

A029. 純紫金末については、取り扱いが無いのではっきりと回答できません。自社において製品としてある「京上 紫金末」の主成分は、錫・クロムです。市中に出ている純紫金末に色を似せて作りました。

Q030. 朱を焼く時はどうしたらいいですか？

A030. 危険なので、焼くことはお勧めしません。朱に熱をかけると水銀が昇華したり、硫黄ガスが発生したり、大変危険です。

Q031. 象牙色は本当の象牙を使っているのですか？

A031. いいえ使っていません。石灰岩系の原石で作っています。鉄成分の発色により黄色っぽくなります。象牙の色に似ています。

Q032. 弁柄について

弁柄と言えば、赤・朱といった色のイメージがありましたが最近“黄”や色々な色が出ているのは何故でしょうか？

A032. “鉄”は、発色の幅が広い鉱物です（黒～黄・赤まで）。顔料としても発色のさせ方で色幅をもたせる事が出来ます。昔の“ふきや弁柄”は鉱物から作っていた弁柄です。今では原材料の鉱物が採取できない為、鉄から弁柄を作っています。

Q033. 原料はどの様にして調べる事が出来ますか？

A033. 原料は製品のMSDSを通して調べる事が出来ます。ホームページから御連絡下さい。天然岩絵具は一色につき複数の鉱石は使用せず、単一の鉱石から製造しています。合鼠のみ天然の鉱石を原料に混色しています。

Q034. アクリル絵具の上に岩絵具をのせたいのですが、何を糊材として使うのがいいでしょうか？

A034. 同類のジェルメディウム・マットメディウムあるいは膠を混合されるなど試験される事をお勧めします。

Q035. 人工顔料によって筆切れが起こるのは何とかなるのでしょうか？

A035. 人工顔料(岩絵具)の粒子形状が原因と言う訳ではないと考えられます。人工、天然に係わらず、5～8番位までの荒い粒子は、筆切れが起こる可能性があります。

Q036. 箔（アルミ箔）を貼った後、その上に絵具が定着しやすくする為にコーティング出来る薬品？があると学校の先生に言われた事があるのですが、もし有りましたら教えて頂きたいです。またお勧めの方法などありますか？

A036. ドーサを引く方法があります。「デザインコート」「グロスメディウム」(ホルベイン製)という商品等) 注 **ホルベイン工業様のコメントあり。

Q037. 銀箔を焼く時、硫黄の粉末と液体のどちらが良いでしょうか。またどう違いますか？

A037. 液体はよほどキレイに洗わないと残留すればその上の絵具に影響を及ぼす恐れがあります。そういう意味では、粉末の方が良いかと思われませんが、いずれにせよ、少しでも残留すると他の顔料に影響しかねませんので、絵具メーカーとしては、基本、硫黄の使用は推奨しません。

Q038. 板絵をする時の下地について

直接木に絵具をのせる時下地にドーサを塗る方が良いのか、膠をすわせるほうが良いのか、始から強めにのせた方がいいのか、良い方法を教えてください

A038. 木の素材によります。あまりアクが上がって来ない物なら膠を塗り重ねるだけでも良いかも知れませんがアク止めとしてはドーサをひいた方が良いでしょう。アクが強い場合は、通常よりやや濃い目のドーサを塗り、乾いてからまた塗り重ねる事を3回ぐらい繰り返します。

株式会社墨運堂

(Q 039 - 047)

Q039. 軟水と硬水の違い

A039. 墨を磨る水は「木の葉にたまった朝露」が良いと聞かれたことがあると思います。墨には軟水(特に硬度20~60)が良いことは、カーボンの分散・のびがよく特に滑らかな書き味が得られる点で事実でありますし、幸いなことに日本は軟水域です。一般的には硬度が高くなりますと運筆に硬さと重さを感じられ、分散・のびにも影響を与えます。膠は軟水に溶けやすく、硬水にはその中に含まれる金属塩のため溶けにくい性質があります。しかし硬水がすべて悪いのかと言いますと、その水の組成により一概に言えません。水の硬度は一般的に100未満を軟水、100~300を中硬水、300以上を硬水と分類されているようですが、現代ほど世界の数多くの水(ミネラルウォーター)を経験できる時代はありません。硬度20程度から硬度1500程度まで販売されていますので、一度お試しになっては如何ですか。

Q040. 墨と硯の相性→すべったり吸い付いたりする差

A040. 墨と硯の相性はあります。中国の墨は煤10に対し膠10~12で固いです。日本の墨は煤10に対し膠6が一般的で柔らかいです。墨が少し硬くても柔らかくても、硯に吸い付くように滑らかに磨れるのが相性が良いと言うのでしょうか。硯の鋒鋸の硬度のムラもありますし、墨の練りの不均一さによるグリつきにもよりますのでなかなか難しいことです。ただ松煙系の直火焚きの煤を使った墨(青墨)は粒子分布の広いもので、その凝集体も大きいものですから細かい鋒鋸の硯が適しています。青墨を淡墨でお使いの時は、できるだけ細かい鋒鋸の硯をお使いになられた方が墨色も冴えますが、お好みにもよりますので一概には申し上げられません。また硯の鋒鋸が減ってしまっており墨がすべってしまうような場合は、硯用砥石で研いでいただくと磨りやすくなります。墨造りの立場から申しますと、どの硯にも相性のいい、素直な墨造りが大切と考えています。

Q041. 紙にのる墨と入る墨

A041. 紙が同一で磨墨濃度と書写時の温度が同じ時は、紙にのる墨は膠が固く、紙に入る墨は膠が柔らかいです。練りの悪い、軽い墨を造りますと、墨の中に無数の連続気泡ができ空気の流通がよいため割れにくいのですが、湿気を吸い易く、加水分解により膠の分解が早いため煤の凝集が進み、墨の寿命を極端に縮めます。このような墨は紙に書きましても、煤が微粒子にならず紙繊維への浸透が阻害され、ただ紙の上に煤が乗っている状態になり、墨色も悪く表具性も悪くなります。墨の枯れは、自然界における蛋白質の分解の過程であり、この分解の過程においてその表現の変化を長く楽しむためには、加水分解をできるだけ抑えることが大切で、そのための墨造りは、均一な膠液で良く練り上げ緻密な墨を造り上げることが、大変重要であります。良く練り上げられた緻密な墨の磨墨液は、紙への浸透も良く、煤が紙の繊維の奥深くまで絡み付き、冴えた墨色になりますし、表具性も格段に良くなります。

Q042. 今の煤と昔の煤の違い

A042. 昔は松煙、油煙（菜種・桐・ゴマなど）でしたが、現在は松煙、油煙に加え、鉱物油煙なども加わり機械焚きもしております。弊社の墨には原材料名が記載されております。

Q043. 青墨の墨液を使用して制作しているのですが、松煙墨の磨ったものを乾いた上から塗って混ざりすぎないようにする方法はありますか？

A043. 乾いたうえからぬると基本的には混ざりません。生乾き(完全に乾いていない)や墨溜りのところでは墨は混ざります。

Q044. 絵画用の墨と書道用の墨の材料や製造方法など様々な違い

A044. 絵画用も書道用も煤・膠・香料という材料や製造工程などの違いはございません。あるのは色目・書き味の違いのみです。

Q045. 膠や油分毎による照りのない墨はどんなものがありますか(マットな発色の墨)

A045. 照りのない墨：膠の少ない墨、照りのある墨：膠が多い墨です。
マットな発色にしたい場合は膠の少ない墨や古墨を使うとよいです。また、油煙に比べ青墨や松煙墨は比較的マットになります。

Q046. 大きく膠を減らした墨(さぼくが目に見えて残る)は製造されていますか？

A046. 一般的に日本の墨は煤10に対し膠6になりますが、当社では膠の配合を改良し煤10に対し膠5.5～4.5まで減らした墨を製造しております。

Q047. 持ったとき墨によって重さが違うのですが、なぜ違うのですか？

A047. 二つ理由が考えられます。一つ目は古墨（製造後何十年も経ったもの）です、製造時に含まれている膠が加水分解により膠量と水分が減少し軽くなりますので、同じ墨でも新墨時と重量が変わります。二つ目は緻密に練られてないスカスカの墨です。新墨はある程度持ち重みのする墨がよく練られているものですので、外寸は同じようでも重さの違いが出るかと思われま。また、“墨は軽い方がよい”とお聞きになったことがおありかと思いますが、これは古墨のことで、新墨で軽いふかふかした物は、練りも悪く流れも良くありません。また、空気中の湿気を吸い易く命の短い墨色の汚い物です。市場で販売している墨は、製造後5年以下の物が大半ですので、持ち重みのする墨肌の緻密な物をお選び下さい。重くとも湿気の感じる物は良くありません。墨に木目が写り、良く乾燥していて、持ち重みのする墨を選んで戴ければまず間違いはありません。

油系絵具

株式会社クサカベ

(Q 048 - 071)

Q048. アキーラをマットな表情にするため使っているのですが、下層が透けてしまい上手くいきません

A048. アキーラはマット（艶消し）な仕上がりですが透明色と不透明色があります。透明色は下層色を覆い隠す力（隠ぺい力）が弱いので隠ぺい力が強い不透明色を選んで使用してみてください。

Q049. アキーラの上にアクリル絵具は重ねることができますか？

A049. アキーラの乾いた塗膜は油性塗膜としての性質を含んでいます。したがってアキーラの上にアクリルを重ねると、層間の接着は十分ではなく、将来剥離するおそれがあります。反対に、乾燥したアクリル塗膜の上にアキーラを乗せるのは良好な接着が得られます。

Q050. アキーラはテンペラのような古典技法としての使用は可能ですか？

A050. 可能です。アキーラは元々、テンペラ技法を簡単に行えるようにというコンセプトで作られました。

Q051. 絵絹に日本画を描いているのですが、アキーラは他のどのような絵具に塗り重ねることができますか？

A051. 膠の上にアキーラを重ね塗りしても問題ありません。アキーラの上の膠については支持体にアキーラを擦りこむようにしたごく薄い塗布面であれば、その上の膠は食いついて接着しますが、膠が食いつくことができないような画面ですと接着しません。他にもアキーラは油絵具、アクリル絵具、アクリルガッシュ、透明水彩絵具、不透明水彩絵など、様々な絵具の上に描くことが可能です。油絵具に関しては、アキーラの上に重ねることも可能です。

Q052. アキーラを使った筆(羊毛)は何日位経っても大丈夫ですか？ 洗い方はどうすればよいですか？

A052. アクリル絵具と違い翌日まで放置しても、石鹼水で漬け置き洗いすると汚れを落とすことができますが、アキーラは2~3日で水に溶けにくくなりますので、使い終わった筆はお早めに洗ってください。

Q053. アキーラの3D スムースペーストの上に油絵具をのせても大丈夫ですか？

A053. 大丈夫です。その場合は、3D スムースペーストを塗ってから72時間以上経過させ、3D スムースペーストの中まで完全に乾燥させてください。3D スムースペーストの乾燥が不十分なまま、油絵具を重ねてしまうと、後から蒸発してくる水蒸気が油絵具層を押し上げ、油絵具の剥離の原因となります。

Q054. アキーラと油彩の描き重ねはできますか？

A054. 描き重ねの制限はなく、何層でも重ねることができます。
しかしアキーラと油絵具の混色はできません。

Q055. アキーラの上にテンペラで塗ると、下のアキーラの色が動いて混ざってしまいます。
早く乾燥させる方法がありますか？

A055. アキーラ専用オプションメディウムに「ドライハード 速乾」メディウムがあります。
アキーラと混ぜて使用すると、アクリル絵具と同じ速さで乾燥します。ただし、ドライハードを
混ぜたアキーラは、油絵具または油性キャンバスの上には重ねることができませんので注意して
ください。

Q056. アキーラ専用トップコート美しく塗るには何がベストですか？

A056. トップコートそのまま塗りづらい場合には、少量の水で薄めて使用することをお勧めします。

Q057. 服に油絵具がついた場合、一番取れやすい方法はなんですか？

A057. 溶剤は服に染み込むのでお勧めしません。中性洗剤などを使用し、歯ブラシのようなもので叩く
ようにするとよいでしょう。また、浮き上がった絵具は布などを押し当て、吸い取るように取っ
てください。

Q058. アクリル絵具の上に油絵具は重ねることができますか？

A058. アクリル絵具で描いてから、油彩で描きだすまでに、72 時間以上間を空けて養生させなければ
なりません。水分が抜ける前に油絵具を重ねると、あとから蒸発してくる水分が油絵具の層を押
し上げて、層の剥離をまねくおそれがあります。

Q059. 油彩で筆跡を残さないためにはどうすればいいですか？

A059. サンシクンドリンシードオイルやスタンドオイル等、少し粘りのあるオイルを使用すると描き
やすいです。筆も柔らかいものを使用するとよいでしょう。

Q060. 紙に塗った油絵具は乾かないのか

A060. 乾燥します。銅版画をイメージしていただくとわかりやすいでしょう。何の処置も施していない
紙の場合、絵具の油分を吸い絵具の酸化により紙が劣化していきますのでご注意ください。

Q061. 速乾性を高めるオイルの調合が知りたいです

A061. 乾燥促進剤やアルキド樹脂を配合すると、油の乾燥が早くなります。ただし、すでに調合された
速乾性溶き油に前記のものを加えることはお勧めしません。調合されたものは各メーカーがベスト
と思われる状態にしているので、シワよりや乾燥不良などのトラブルを招く可能性が高まります。
す。

Q062. キレのある絵具の自作方法を教えてください

A062. 乾性油はさらとした油ですので乾性油のみで絵具を自作しようとすると、どうしても柔らかい絵具になってしまいます。ステアリン酸や金属セッケンと呼ばれる、常温で固形の脂肪酸、脂肪酸塩を添加するとキレのある絵具ができます。

Q063. 粘度が強い絵具を作るために必要な素材、方法などありますか？

A063. クリスタルメディウムがお勧めです。蠟が含まれているので、混ぜた絵具にコシが出て盛り上げに適しています。しかし蠟分は油を弾いてしまうので上に重ねる油絵具を弾いてしまいますので、下塗りでのご使用は避けてください。

Q064. 油絵具で岩絵具の乳白した感じは出せますか？

A064. 油絵具は顔料を、岩絵具は天然の鉱石などを粉碎したものを、新岩絵具は金属酸化物などの顔料とガラス原料を混ぜ、高温で溶かし粉碎したものを有色成分として使用しています。岩絵具と新岩絵具の場合、乾性油と混ぜて油絵具を作ろうとすると透明になってしまいます。方解石やガラス成分は光の吸収、屈折がほとんどなく、透過してしまうからです。

Q065. 油絵具のホワイトの種類、使い分けが分かりません

A065. クサカベ油絵具のホワイトには、シルバーホワイト、ジンクホワイト、チタニウムホワイト、パーマメントホワイトの4種類があります。各ホワイトに使用されている顔料によって、隠蔽力や着色力が異なります。使用用途に合わせてホワイトを使い分けると良いでしょう。それぞれの大まかな特徴は以下の通りです。

◆シルバーホワイト(顔料：鉛白)

古典的な重厚感のある白色で、強靱な塗膜を形成します。隠ぺい力は中間程度で、やや黄変しやすいです。遊離硫黄を含む絵具との混色や大気中に硫黄性のガスが含まれていると、黒ずむことがあります。

◆ジンクホワイト(顔料：酸化亜鉛)

やや青みのある澄んだ白色で隠蔽力があまりなく、混色の際ににごりが少ないです。またホワイトの中で最も黄変しにくいですが、しかし塗膜が弱く、上の絵具層に亀裂を与えてしまうことがあります。ジンクホワイトを下地に使うことは避けましょう。

◆チタニウムホワイト(顔料：酸化チタン)

着色力と隠蔽力がたいへん大きく、少量の白で中間色を作れます。あまり多く使用すると、にごりやすいので注意が必要です。化学的に安定しているために亀裂や剥落の心配がほとんどありません。

◆パーマメントホワイト(顔料：酸化チタン)

チタニウムホワイトにさらに体質顔料を加えて、着色力と隠ぺい力をやわらげたものです。黄変はチタニウムホワイトよりやや強くなります。

その他、速乾のクイックタイプ、習作向けのスタディー、他社製品にはセラミックホワイトなどがあります。各社ホワイト用のカタログを用意しておりますのでご参照ください。

Q066. ダンマル樹脂を使用してひび割れない使い方を教えてください

A006. ダンマル樹脂は軟質樹脂ではありますが、乾性油成分に比べると柔軟性に欠けます。ダンマル樹脂の割合を多くしすぎず、柔軟性をもつ乾性油等の油分を足すことでひび割れを防ぐことができます。

Q067. 透明水彩で描くときにマチエールをつけたい時はどうすればよいですか？

A067. 水彩絵具用のマチエール材が発売されています。水彩絵具用のものをご使用ください。

Q068. 筆の根元に固まった絵具の戻し方はありますか？

A068. 水性クリーナーの中には筆の根元に固まった絵具をとることができる商品があります。水性クリーナーに固まった筆を半日ほどつけておくと、固まった絵具が取れやすくなります。

Q069. ジェッソをキャンバスの地塗りに使うとき、どのくらいの濃度で何回重ねたらよいですか？

A069. ジェッソはそのまま使用するか、少量の水で溶いて使用してください。薄め過ぎてしまうと接着力が低下します。油彩の場合油がキャンバスの裏に染み込むのを防ぐために3回くらい塗ります。平滑な画面にする場合、5回くらい塗りサンドペーパーをかけます。

Q070. ウサギ膠は、どここのどのようなものを輸入されているのですか？

A070. イタリア産と聞いていますが、購入先の資料に産地は明記されていないのが現状です。

Q071. カゼインテンペラの一番簡単な作り方を教えてください

A071. カゼインテンペラは簡単にはできません。カゼインの溶液を作るのに必要最低限な原料は、カゼイン、水、アルカリ成分（アンモニア、ホウ砂、灰汁、石灰など）、防腐防カビ剤です。カゼインを水に膨潤させた後アルカリ成分を加え、溶解させます。程よい硬さになったら防腐・防カビ剤を添加します。使用前に適宜、水で薄めて調整します。

ホルベイン工業株式会社

(Q 072 - 109)

Q072. 油彩画で筆跡が極力残らない画面を作るコツはありますか？

A072. 基本的にスタンドオイルを使うべきかと思います。さらにベネシヤンターペンなども加えるとブラシマークが残らなくなるでしょう。乾燥は遅くなりますが。

Q073. リクインを使って描いたときにも黄変はおきますか？

A073. リクインは W&N 社のアルキド樹脂系画用液です。ホルベインで言えばペンティングメディウムゼリーに相当します。アルキド樹脂は元は乾性油で、いくつかの脂肪酸を取り外し、ここに別な酸をつけて合成された物です。乾燥メカニズムはやはり酸化重合なので、黄変します。

Q074. 現在、リクインを使って描いているのですが、時間経過で劣化があるのでしょうか？

A074. リクインはアルキド樹脂系画用液ですが基本的には乾性油と同じく酸化重合で固まります。この為、乾性油と同じく、劣化していきます。元々、高分子であり、塗膜が硬いので、強度はありますが、揺すられるなど物理的な力が加わるとクラックします。

Q075. 黄変しない様に油彩を描くにはどうしたら良いのでしょうか？

A075. 基本的に油絵具で黄変させない方法は理論上ありえません。しかし、生の乾性油ではなく、スタンドオイルを使う事や、上層にニスを多くすることで、黄変をできるだけ免れさせることはできます。

Q076. ホルベインの製品で黄変しにくく、乾きやすいオイルを探しています

普段ウィンザーニュートン社のリクインを使っているのですが、それに似たものはありますか？

A076. 乾燥性と黄変性はどちらも酸化重合に関係しており、酸化しやすいものは黄変します。したがって、両立させるものは存在しません。方法としてはスタンドリンシードやポピーオイルの様な黄変の少ないオイルにシッカチフを入れる事、温度を高く保つこと等でしょうか。なお、ウィンザーニュートン社のリクインに相当する小社の製品はペンチングメディウムゼリーです。いずれもアルキド樹脂でできていて、乾燥は速いのですが、塗膜が硬くなるのが欠点です。

Q077. 層に厚みを持たせるときに透明で重量感がでる素材はありますか？

A077. アルキド系ならば、ストロングメディウムや他社の速乾系メディウムを使うと良いのですが、塗膜は硬くなります。柔軟で良い塗膜性能を持つものと考えたらスタンドオイルが良いと思います。

Q078. ハンスメディウムはどの様に作っていますか？

A078. スタンドオイルを加熱して、直接ダンマル樹脂を溶かしたものがハンスメディウムなので溶剤が含まれていません。

Q079. 藤田嗣治と同じ描画法をとって制作しているのですが、使用しているオイルの乾燥速度が非常に遅くて困っております。オイルの内容はポピーオイル+ハーレムジェロ+ブラウンシッカチフです

A079. ポピーオイル系のものに関しては、基本的に乾燥が遅いのは仕方ありません。酸化重合する時に酸素がとりつく部分が少ないのですから、乾燥は遅いが、その分黄変性が少なく、それをメリットとして考えるなら、遅さを我慢するしかないと思います。もし、少しでも速くというのであれば、温度を高くするしかないでしょう。

*筆者注 ハーレムジェロと書かれていたので、現場では分からなかったのですが、ルフラン社のハーレムデュロジシッカチフメディウムの事ではないかと思われまます。リンシード+フェノール樹脂+ペトロール+ドライヤーの組み合わせの様ですが、ポピーを使いながら、なぜこれを使うのか意味が不明です。

Q080. 油絵具でアクリルのクリスタルジェルメディウムの様な艶と光沢感を出すにはどうしたら良いでしょうか？

A080. クリスタルジェルメディウムの様に、事後も黄変しないで透明性を保持できる油性の物は難しいと思います。使うのであれば、スタンドリンシードオイルですが、絵具に混ぜて使うべきでしょう。もし、絵を描いた上に、スタンドをワニスのように塗り重ねると、黄変性が少ないとは言え、やはり黄ばんできます。

Q081. リンシードの乾燥を速める方法はないですか？

A081. 基本的には、温度を高くすることが最も有効な方法です。冬場でも、ホットカーペットの上に置くなどの工夫が必要でしょう。真夏に油彩画が如何に速く乾くかを考えると分かる通りです。それ以外の方法としては、シッカチフを適量混合する、ルツーセなどを加えて、ワニス性を高めるなどかと思ひます。

Q082. サンシックスドオイルを自分で作ったとして、メーカーで作られたモノとどう違うか教えて欲しいです

A082. 水の上にリンシードを張り、太陽光に当てて、じっくりかき混ぜながら乾かしていくと、確かに個人でもサンシックスドを作る事は可能です。ただ、多くの過酸化物ができているので、そのまま瓶などに入れると、割れてしまう恐れが強いのです。我々も試作していた時に、たくさんの容器を割りました。酸化重合は実はラジカル反応で、原子爆弾などと同じく爆発的に起こる反応です。この為、制御しなければ、瓶の口を吹き飛ばすくらいの力があります。こうした過酸化物を加熱して追い出すなりの作業が必要です。乾燥被膜も混入しているので、濾過もしなくてはならないでしょう。多分ですが、そこまでやるのであれば、買った方が安いでしょうね。

Q083. 種類の異なるオイルを重ねると弊害の出るものはありますか？

A083. 画用液は基本、溶剤、乾性油、ニス類の3種に分けて考えれば良く、それらをどう組み合わせても問題はあります。ただし、ファットオーバーリーの考え方の通り、溶剤→乾性油→ニスと順番に重なっていくイメージを持った方が良いでしょう。この手順が逆さまにならない様に注意してください。

Q084. ペンチングオイルとターペントインの2種で描き進めています。途中ではじくような感じがします。対処法はありますか？

A084. 乾性油は酸化重合していくと、高分子になります。こうすると難しそうですが、元々、一つのものであったものが、酸素が入ってきて、たくさんくっつきあって、塊になります。乾くというのは、図体が大きくなりすぎた為に、動けなくなったと考えれば良いわけです。絵具が塗り重なり塗膜が平滑になり、微視的に見ればくっつく部分がなくなるので、上から塗った絵具が滑る様になります。とりあえず、重ね描きした塗膜が塗布後、時間が経っていない時は、ターペントインで表面をさっと拭いてみましょう。そうすることで、表面を多少、荒らすことができます。それで駄目なら、サンドペーパーでさっと表面を荒らしましょう。こうすれば、物理的に上の絵具がくっつきやすくなります。ただ、細密な絵を描いている場合、表面を荒らすことに抵抗があると思います。こうした場合、ルツォーセを塗って、その粘着性によって引っかかりをつくる事もよくやられます。ただ、この方法は、あくまで擬似接着であると考えられるべきでしょう。

Q085. ホルベインの画用液に蜜蝋を混ぜても大丈夫でしょうか？

A085. 基本的に蜜蝋は艶消し材として、良く使われますので、混ぜてもらっても大丈夫です。ただし、多く入れすぎると、定着性が悪くなりますので、あまり多用しないようにしてください。

Q086. ラピッドメディウムの上からダンマルワニスを塗っても大丈夫ですか？

A086. 何の問題もありません。

Q087. ジェルメディウムに松煙墨の粉を混ぜても大丈夫ですか？

A087. ジェルメディウムはアクリル絵具の「糊」そのものです。基本的に絵具は色の粉に「糊」の混ぜたものですから、ご自分で松煙墨の絵具を作るという事なので、何も問題ありません。

Q088. ホルベインのバーニッシュについて、グロスかサテンのどちらかを使いたいと思いますが、どう違うのですか？

A088. マットバーニッシュはグロスバーニッシュにシリカを加えて、表面が凸凹になる様に作られています。サテンは、マットとグロスを足して2で割ったものなのです。

Q089. サテンバーニッシュをきれいに吹きかけるコツを教えてください

A089. 基本的に、光沢の揃っていない画面に直接、サテンやマットを吹きかけるとバラツキが出てうまくいきません。基本的には、グロス系のコートを手掛けて均一にし、その上に、サテンを手掛けてみてください。

*筆者注 長くスプレーを吹き続けると、気化熱によって温度が下がり、噴霧圧が下がります。この為、画面が大きい場合、一度に掛けずに、少し時間をおきながら作業してください。

Q090. マットメディウムを霧吹きで噴くと、白い物が付きますが、あれは何でしょう？

A090. つや消しにするためには、表面を凸凹させて、光を乱反射させる必要があります。その為に良く使われるのが、シリカです。したがって、これを噴くと先にシリカの粉が付着して白くなります。そこでやめずに、更に吹きかけていくと、次第に糊分も付着して行って、少しずつ透明化し、適度なつや消しになるでしょう。

Q091. 知人が筆洗液として、食用オリーブオイルを使用していると話していますが、オリーブオイルに油を分解洗浄する能力が有るのでしょうか？また、筆に優しい筆洗器はありますか？

A091. とても面白い話ですが、オリーブオイル自体に洗浄能力がある訳ではありません。天然毛の筆などは、石油系溶剤で洗浄されると脱脂されてしまって痛みます。しかも筆洗液で洗っただけの筆には乾性油が残存するので、これを固形ブラシクリーナーなど石鹼類をつけて水洗しないとすぐに酸化して固まってしまうわけです。この時に筆は更に痛むこととなります。そこで、ブラシクリーナーなどで、筆を洗浄した後、水洗いせずに、ポピーオイルなどにつけておく方法をとっている人は多いようです。ブラシクリーナーで洗った後、乾性油の中にチャポンと漬けておくと、酸化されないの、筆の中心部は酸化せず、痛みません。実に合理的な方法です。ただ、オリーブの様に完全な不乾性油を使うと、もし、絵具に混じり合えば、乾かなくなるので、使うときに洗う必要があります。それを考えると、浸け置きするなら、乾性油の方が良いでしょう。

Q092. 岩絵の具の上に油彩を重ねる事は問題ないでしょうか？

A092. 岩絵の具は基本的に粒子が大きく、この上に油彩を重ねる事は、全く問題ない物とされます。

Q093. アクリル絵具の上に岩絵の具を使いたいのですが、何でくっつければ良いのでしょうか？

A093. ジェルメディウムのハイソリッドを使ってみてください。基本的にアクリルの糊はグロスメディウムでそれを増粘させたものがジェルです。岩絵の具は粒子径が大きいので、グロスよりもジェルの方が使いやすいでしょう。また、ジェルの中でも固形分が多く、定着しやすいハイソリッドが良いでしょう。

Q094. ホワイトベースの下地(チタン白)で、最高何回まで重ねても大丈夫ですか？

A094. 油絵具の場合、重なれば重なるほど、内部の油絵具層の酸化が遅れます。酸化というのは言い換えれば老化であり、層を重ね、内部に酸素の入りにくい状態を作り出すことによって、柔軟性が保たれるものと思います。何層というのは、曖昧な話なので、具体的な答えはありません。いずれにしても、下地として使うのであれば、チタン白ではなく、粒子が扁平で大きな鉛白系(ファンデーションホワイト)を使うべきです。

Q095. ホワイトベースを引くとき、パネルに何も引かずに乗せても大丈夫でしょうか？

A095. パネルの材質にもよりますが、シナベニアならば大抵、大丈夫でしょう。ラワンなど南洋材の場合、アク止めシーラーがありますので、それを塗ってください。以前ならば、捨て膠を施すなどしていたと思います。修復家の書いたものを見ますと、板に直接ではなく、布を一枚、貼って欲しいと言われていたと記憶します。

Q096. 油絵の下地として、ジェッソとアブソルバンでは、どちらがお薦めでしょうか？
またどの様に違うのでしょうか？

A096. ジェッソは半吸収下地、アブソルバンは吸収下地です。アブソルバンの上に油彩で描画してみると、細線がきれい引け、細密画を描く人などには、理想的です。ジェッソの場合、引っかかりが良く、一般的な下地と言えるでしょう。いずれにしてもご自分の画風次第です。

Q097. パネルに綿布を貼った後、アブソルバンを直接塗っても良いですか？

A097. それアブソルバンを使う場合のベストの方法だと思います。アブソルバンは強い吸収性を持たせるために、顔料が多く、糊分の少ない組成となっていますので、クラックが起こりやすい下地材です。その為に、膠引きキャンバスのように、下地が水分で緩んで動くようなタイプのキャンバスは苦手です。また、通常の木枠張りキャンバスでも収縮があるので、パネル張りが良いでしょう。

Q098. アブソルバンは、石膏を塗った場合と同様の下地になりますか？

A098. バインダーが異なるので、全く同じとは言いませんが、考え方は同じなので、かなり似通ったイメージになるでしょう。

Q099. 下地を作る時に例えば黒い下地を作りたい場合、黒い顔料を混ぜて作る事は可能でしょうか？

A099. できない事はないでしょうけれど、黒顔料は粒子が細かく、下地材として向いていません。ブラックジェッソのようなものを利用するか、ファンデーションホワイトを塗ってから、ブラックを塗り重ねて下地とされるのが良いでしょう。

Q100. ムードンやポローニア石膏よりも画面に光沢の出る下地を作る素材はありますか？

A100. ムードンやポローニア石膏と膠で作られる下地は吸収性下地です。当然、油分が吸収されるので、つや消しになります。少し艶が出したいのであれば、サンシクンドリンシードオイルと膠液を混ぜたエマルジョンを作って、半吸収性下地を塗るか、単純にファンデーションホワイトを塗って、非吸収性下地を作るかです。

Q101. 石膏の違いを教えてください(二水石膏と無水石膏など)

A101. 石膏には、2分子の結晶水を持つ二水石膏、1/2分子持つ半水石膏(焼き石膏)と水を持たない無水石膏があります。半水石膏を加熱すると無水石膏ができますが、次第に空気中の水分を吸って、半水石膏に戻ります。この半水石膏は水と混ぜると水和反応して、カチカチに固まります。ギブスや彫塑に使う分ですね。これに対して、膠水と混ぜて絵画の下地に使われるのは二水石膏で、水と混ぜても固まりません。ポローニアも二水石膏です。

Q102. 石膏とムードンの違いについて

A102. ご存知の通り、石膏は硫酸カルシウムで、ムードンは炭酸カルシウムです。石膏の方が硬度が高いとか、基本物性の違いもあるのでしょうけれど、性能に拘わる一番大きいものは、粉碎したときの粒子径なのだと思います。元々、両者とも屈折率がバインダーに近い・つまり白を主張しない・下地材を探したときに、安く手に入ったのが石膏であったか、炭酸カルシウムであったかと言う違いかと思えます。同じムードンであっても粒子径が異なれば、吸油量が異なり、塗膜の性状は異なります。

Q103. (ムードン+膠水)で下地を作った場合と(炭酸カルシウム+チタン白+膠水)で作った下地を比較すると前者の方が暗く感じるのはなぜか。また、後者の方が割れやすかったりするのでしょうか？

A103. そもそも、チタン白は白色顔料ですが、炭酸カルシウムは体質顔料と呼ばれる物で、白色顔料ではありません。体質顔料はバインダーと屈折率が近い顔料の事を指し、透明性の高い塗膜になります。従って、チタン白の入っているものの方が明るいのは当然です。ちなみにムードンも天然の炭酸カルシウムです。

Q104. ランプブラックのテカリについて教えてください

A104. ランプブラックに使われている顔料は粒子が細かいのですが、粒子が小さければ、表面積は大きくなり、表面積が大きくなるとそれを覆うための油がたくさん必要だと言う事になります。絵具の光沢はほとんどが、PVC(顔料容積濃度)によって決まります。逆に粒子の大きいセルリアンブルーなどは、油の量が少なく、つや消しになる典型的な例です。

Q105. アリザリンレーキの様な透明色の使い方について

A105. 透明色に関しては、本来、色同士を混ぜ合わせて使うのではなく、グレースに使うべきものだと思います。薄い色ガラスを重ねる様な気持ちで色を重ねると深みが出ます。ヴェルネのテールヴェルトやイエローオーカーなどは、土系の絵具であるにも拘わらず、本当に透明性が高いので、同じ様にグレースする事が可能です。

Q106. 顔料ペーストを膠で絹本に使うのですが、どのくらいの厚さまで塗って大丈夫ですか？割れることはありますか？

A106. これは、顔料ペーストに関する質問というよりは、膠の塗り重ねの質問と解されます。顔料ペーストはただの顔料分散体であって、糊が入っていません。膠をお使いになる訳ですから、それは、日本画の基礎で、濃いものから薄いものへ、丁度油彩画のファットオーバーリーンの逆さまの考えになるものと思います。結論から言えば、塗り重なると割れる確率は高くなるでしょう。

Q107. 箔(銀やアルミ)の上から顔料ペーストなどを掛けると色箔の様にできると聞いたのですが、どの様に、何を使えば良いですか？

A107. 初耳です。一度試してみたいと思います。ひょっとするとフタロブルーなど細かい顔料のペーストならば、バインダーなしでも格子欠格に入り込んで、着色するかもしれません。

Q108. 箔の上に油彩を重ねても問題ないでしょうか？

A108. そもそも、箔自体が外力に対して強いものではないので、基底材としては不適です。この上に油彩を重ねると、鏡面に描いていることになって、投錨効果が見込めません。ただ、ある程度、絵具はつきます。

Q109. 石塑粘土の上に塗る仕上げ剤を探しています

A109. アルコール溶性のワニスを試してください。小社でいえばテンペラワニス、和信ペイントさんの水溶性ニスなどを使うと良いでしょう。

松田油絵具株式会社

(Q 110 - 121)

Q110. 顔料ベースのイエローオーカーが少し固めなのはなぜですか？

A110. 「京都顔料ベース」は新しく開発された水系の画材です。絵具は顔料と展色剤（糊）から構成されていますが、「京都顔料ベース」は、絵を描く人がそれぞれの表現に合わせて展色剤を自由に選択できるように、顔料に工夫を施した材料です。つまり展色剤の入っていないもので、顔料に分散性や湿潤性を与え、展色剤に対しての反応性を防ぐために安定剤を加えたものです。水溶性「京都顔料ベース」に膠水を混ぜれば日本画に、アラビア水を混ぜれば水彩画に、アクリルエマルジョンを混ぜればアクリル画に、またテンペラ画、カゼイン画にも、そして水で溶くだけでフレスコ画に使える応用範囲のある便利な材料になります。イエローオーカーは成分が水和酸化鉄で、また、顔料濃度が高いためチキソトロピー（揺変性）の性質があり、衝撃を加えると柔らかくなる特徴があります。この場合水、または展色剤を少し添加すれば問題ないと思います。

Q111. どうしてマツダ・スーパー油絵具の色はあんなにも白く、重いのですか？

A111. スーパー油絵具はホワイトだけでなく、全色に体質顔料を極力避けていますから濃度や堅牢性の高い絵具になっています。また黄変を防ぐため全色にポピーオイルで練り上げていますから、変色や退色のないようにつくられています。このようにスーパー油絵具は顔料の含有量が高く、絵具の純度が高いため、絵具も自然と重くなります。

Q112. 光沢感のあるバロックのような絵画をつくりたい

A112. 油絵具に混ぜて光沢のでる画用液は色々あります。例えば、光沢の出る画用液として調合されたペンティングオイルなどはよく一般的に使われていますが、これより、より光沢のでる画用液として、リンシードオイル、ポピーオイル、ボイルドリンシードオイルがあり、もっと光沢のでる刷毛目もでない画用液にはスタンドポピーオイル、スタンドオイルがあります。黄変しにくいものを選ぶならポピー系のものを選ぶのがよいでしょう。又、樹脂系光沢のものなら、パンドル、クイックペンティングオイル、変色を嫌う場合は黄変しないクイッククリスタルパンドルがあります。

Q113. 油絵で水彩のようにぼかしたような描き方をしてみたいのですが、可能ですか？

オイルの種類について教えてください

A113. 油絵具を画用液で十分に柔らかくし粘性のあるオイルなどに絵具を分散させぼかしていく方法があります。粘性のある画用液として、リンシードオイル、ポピーオイル、ボイルドリンシードオイル、スタンドオイル、スタンドポピーオイル等があります。油絵具をやわらかくして上記のオイルに分散させてぼかしてみてください。

Q114. 色によって乾燥速度が違うのは何故ですか？

A114. 油絵具に使われている展色剤は乾性植物油が使われています。乾性植物油は空気中の酸素と結合して「酸化重合」というかたちで固化乾燥します。油絵具に使われている顔料の種類(色)によって乾燥が変わってきます。使われて顔料は色々有り無機顔料、有機顔料と分けることができます。油絵具の乾燥は顔料の含有量によって影響を受けやすく、無機顔料のコバルト金属などが含まれている絵具、コバルトブルー系、コバルトバイオレット系、コバルトグリーン系、鉄系が含まれている、プルシャンブルー、イエローオーカーや褐色系のものが乾燥がわりあい早く、有機顔料（スーパーバイオレット、スーパーイエロー、スーパーマゼンタ等）はやや乾燥が遅くなる性質があります。このように油絵具の場合、顔料の種類によって乾燥時間が違ってきます。油絵具の乾燥を少し早めたいと思う場合は画用液で調整することができます。(例. 速乾性クイックペンティングオイル、クイックアルキドメジウムなど)また、油絵具をもっと早く乾かしたいとお考えの場合は、シッカチーフ等ありますが使う色によって少し制限があります。(余分に使うと色に影響を及ぼしたりシワが出る)

Q115. ミツロウの入っている画用液の特徴と使い方

A115. ミツロウは蜜蜂の巣を加熱、圧搾して採取した蠟。主成分はパルミチン酸とミリシル-アルコールとのエステルです。このミツロウが画用液に入っているものには、油絵具と混ぜて使用するオパールメジウムと仕上げ用ワニスとして完成した油絵の上に塗るピクチャーマットバーニッシュ(艶消シタブロー)があります。本来油絵具は光沢のあるものですが、この光沢を嫌い、つやを消したいとき絵具と混ぜて使う材料にオパールメジウムがあります。重合植物油とテレピンの混合体にツヤ消し剤としてミツロウを溶かしたもので、落ちついた柔らかいマットの効果が出ます。直接油絵具に良く混ぜて使うか、適量テレピン油等の揮発性油で薄めることもできます。使いすぎは絵具の乾きを遅らせ、密着性を弱めますから注意して下さい。完成した油絵の上に絵の保護剤(有害ガスや紫外線、湿気など)として使うワニスでマットな仕上げにしたいとき、ピクチャーマット バーニッシュを使います。これもミツロウが入っていてツヤ消し剤として使用されています。いずれもミツロウが入っていますから、使用前によく瓶を振ったり、季節にもよりますが湯煎してお使いください。

Q116. そのままの生地(裏地)の色味を保てるのに適した透明の下地材がほしいです

A116. キャンバスの生地の色をそのままに生かしたいとのことですが、キャンバスの裏地の色、亜麻色を生かすためには膠水のような水性の材料があります。キャンバスの裏地をサンドペーパーで処理してから膠水を何度か塗ってみましょう。

Q117. 油絵具と岩絵の具を同時に併用することはできますか？

A117. 油絵具に岩絵の具の顔料を混ぜることは可能ですが、油絵具と膠で溶いた岩絵の具は水性と油性ですから混合は不可能です。油絵具と京都顔料ベース(水系)の混合も不可能です。

Q118. 画面のツヤを最後に均一にしたいのですが何を使えばよいですか？

A118. 最後に使う材料に油絵を保護しツヤを均一にするワニスにはタブロー(ダンマル)とタブロー(合成樹脂)の2種類があります。いずれもツヤを均一にできますが、タブロー(合成樹脂)は紫外線に強く、塗膜は黄変しない特徴があります。

Q119. 寒冷紗の上に胡粉を塗り、膠で貼った箔の上に油彩を使っても大丈夫ですか？

A119. 可能です。油絵具でしたら弾くこともなくよく描けます。できれば表面に少し凹凸があったほうが定着力が増しより安心です。

Q120. 箔の(劣化を抑えるのに)よいメジウムは何ですか？

A120. 箔でも金箔は水系、油系の接着力ある材料で貼れば、劣化しにくいものですが、問題は銀箔です。銀箔の場合、どのような材料で貼っても変化しやすいので、この場合どうさ(膠とミョウバンを混ぜた水溶液)などを施せば変化は見られません。このように銀箔の劣化を防ぐにはコーティングすることが重要になります。銀箔の代わりにアルミ箔も綺麗で見劣りしませんが、銀箔の劣化を嫌う場合はアルミ箔で代用してみるのも良いのかもしれない。

Q121. 箔を貼ったあと(膠で)箔を綺麗にしっかりコーティングして、その上から岩絵具などをのせていきたいのですが、箔があばれないためのベストなコーティング方法があれば教えてほしいです

A121. コーティングしたものが手で触れて完全に動かないことを確認すればなんら問題はないと思います。箔があばれるとしたら箔を貼る前に接着剤、この場合、膠水がきちんと塗られているかどうか問題だと思います。膠水等でコーティングした場合も同様、箔が動かないことを確認(接着している)してから描き始めましょう。

水系絵具

ターナー色彩株式会社

(Q 122 - 127)

Q122. アクリル絵具で重厚感や光沢を出したく、クリスタルジェルメディウムを混ぜたアクリル絵具を何層も重ねたり、クリスタルジェルメディウム単体で、重ねることで画面がはくりしたりすることはありますか？

A122. ありません。

Q123. クリスタルバーニッシュの上に絵具を重ねることは可能ですか？

A123. 可能です。ゴールデンアクリリックスにメディウムと言うものと組み合わせたら、様々な効果を持たせられます。(光沢、盛り上げ、等)

Q124. 「JAPANESEQUE COLOUR」と普通の絵具の質感の違いは何ですか？

A124. 絵具に細かな粉を混合しております。独特な「ザラザラ」とした質感に仕上がります。日本の伝統を感じさせる落ち着いた色調です。

Q125. 複数のアクリル絵具を混色ののちの彩度が低くなることを防ぐには、やはり他色で補完すべきでしょうか？

A125. はい、その通りです。

Q126. アクリル絵具の特徴等を教えてください

A126. 基本的にはアクリル絵具が油絵具に比べたら乾燥が早い。水分含んでいますので、乾いたら塗膜が痩せます。又水で溶かして使える絵具です。アクリルガッシュは不透明でマットに仕上がる絵具です。盛り上げは難しいです。ゴールデンアクリリックスは色によって異なりますが、主に透明でツヤありに仕上がります。

Q127. 油絵具の下地にアクリル絵具を使用した時に剥離することはありますか？

A127. いいえ、剥離しませんが100%保証出来ません。

株式会社ターレンスジャパン

(Q 128 - 136)

Q128. ジンクホワイトを使用した際に透明感が強くなってしまいました
隠ぺい力の強いホワイトは何ですか？

A128. アムステルダムアクリリック#105(チタニウムホワイト)を使用することで解決です。

Q129. 基本三原色でカバーするのは難しいですか？

A129. 難しいと思います。濁りが強くなることがあり、同じ色を再度つくるのが困難になります。

Q130. ジェルメディウムを使ったブックカバーを作ったのですが問題点などがあれば教えてください

A130. 作品どうしを長期間重ねるとひっつく可能性があります。制作にあたってアムステルブランドでは6種類のジェルメディウムがあります。

Q131. アクリルガッシュと水の黄金比を教えてください

A131. アムステルダムアクリリックガッシュに対して水20~30%程度が筆運びが良く被覆力も良いと思います。

Q132. つや消しのワニスがありますか？

A132. あります。アムステルブランドでは つや消しからつやあり まで4段階のアクリル用ワニスがあります。

Q133. おもしろい質感が欲しい

A133. アムステルダムブランドでは、ミドルパミスメディウム、コースパミスメディウム、パールメディウム等の特殊効果メディウムがあります。その他アクリルメディウムならではの表現が可能です。

Q134. アクリル絵具の上に油絵具は使えますか？

A134. 使えないことはありませんがクラック及び剥離などのトラブルも考えられます。

Q135. アクリル絵具は乾きが早すぎます

A135. 乾燥を調整するためにアムステルダムブランドでは、アクリリックリターダー、スロードロ잉メディウムで乾燥スピードを遅くすることが出来ます。

Q136. アクリル絵具の上にクレパス(オイルパステル)がのりますか？

A136. アクリル絵具の上にクレパス ○ クレパスの上にアクリル絵具 ×
アクリル絵具とクレパスのミクストメディア技法になりすばらしい表現が出来ます。

ホルベイン工業株式会社

(Q 137 - 152)

Q137. 顔料ペーストを漆喰に混ぜることで、漆喰生地の着色は可能ですか？

A137. 使用可能です。

Q138. 膠と混ぜた顔料ペーストを次の日に使っても大丈夫ですか？

A138. 問題ありませんが、冷蔵庫に入れるなど、腐敗対策をしっかりとってください。

Q139. 顔料ペーストを、粉の顔料のように使って水系・油系の絵具を作ることはできますか？

A139. 顔料ペーストは、「水」がベースになっています。従い、水系の糊剤は使用できますが、油をそのまま使う事はできません。ただし、DUO 画用液を使用すれば、(アクリル絵の具のような)水に溶けるエマルジョン絵具を作ることは可能です。

Q140. 顔料ペースト以外で、Holbein が扱っている顔料はありますか？ 特に「黒」の顔料

A140. パウダーとしては、多種販売しています。黒については、Ivory Black、Ivory Black(真正)、Carbon Black、Lamp Black、Diamond Black、Spinel Black があります。漆黒度が一番高いのは Diamond Black(アニリンブラック)ですが、それぞれ、ホワイトでチンティングした時、薄く伸ばした時の色味に明確な違いがあります。Carbon Black、Lamp Black は、墨に使用されている煤の仲間で、Carbon Black は暖色系、Lamp Black は寒色系なので、混合比を変えることで、色々な色味が表現できます。Carbon Black や Lamp Black は、Holbein で販売している以外にも、暖色～寒色、漆黒度の違いなど実に様々な種類があります。

Q141. 顔料ペーストと糊剤の混合比で、やってはいけない割合とかあるでしょうか？

A141. 混合比は、糊剤それぞれで違ってきますが、極端に多かったり、少なかったりでなければ、特に問題ないでしょう。例えば、アラビアゴムで水彩絵具を作る場合、糊が多い分には問題ありませんが、極端に少ないと紙への固着力・定着力が弱くなってしまいます。

Q142. 顔料ペーストを膠ベースで使用していますが、少しツヤが出てしまいます(特にピロールレッド) ツヤを抑えるには、どうすれば良いでしょうか？

A142. 顔料ペーストには、粒子の細かな有機顔料色(ツヤが出やすい)も多く、ピロールレッドもその一つです。分散度も高くしていますので、更にツヤが出やすくなっています。通常は、糊成分を抑えることで、ツヤを落とすことが出来ますが、使用されている糊は、(元々、糊成分の少ない)膠ですから、その方法は採れません。

胡粉など、粒子の粗い体質顔料を混ぜるのも手ですが、ピロールレッドの彩度が犠牲となってしまいます。原色への影響が少ない、シリカ(二酸化珪素)を予めペーストにしておき、様子を見ながら適当量配合するのが、良いでしょう。

Q143. スプレーのような柔らかい表現ができるアクリル絵具が欲しいのですが？

A143. 新製品の Acrylic INK が最適です。

Holbein の Acrylic は、(1)油絵具のように、ナイフ・筆のタッチを活かした表現に向く Heavy Body、(2)フラットで筆跡を残さない FLUID、(3)マーカー、付けペン、ハンドピースなど、色々な表現を可能とする INK…の3種類が揃いました。この3種を併用することで、表現の幅がグッと広がります。これらは、同じ色であれば、色も顔料濃度も同じに設計しています。INK は、そのままハンドピースに使えるので、スプレーのような柔らかい表現が可能です。従来、ハンドピースと言えば、Heavy Body を水やメディウムで薄めていたので、どうしても濃い色での表現は難しかったのですが、INK は、顔料濃度の高い原液のまま使用できます。

Q144. エフェクト顔料の耐光性、定着はどうでしょうか？

A144. エフェクト顔料は、基本的には、雲母(天然、合成)やガラス、アルミなど、扁平な基材の上に、無機質材料を蒸着させて作られます。無機材料ですから、耐光性で問題になることはないでしょう。扁平な形状ですので、少量の糊でも良く定着します。定着性については、むしろ良好といえるでしょう。

Q145. エフェクト顔料を顔料ペーストのような形状にできないでしょうか？

A145. 可能ですが、エフェクト顔料は、ハードケーキ化しやすいので、商品化は難しいかも知れません
→長期安定性に問題あり。

Q146. エフェクト顔料の上からクリアーを掛けると効果が薄れます。計算して顔料を多めに使用する方が良いでしょうか？

A146. エフェクト顔料で描画した上から、クリアーを掛けると、エフェクト効果が薄れてしまう。顔料を多めに使用した方が良いでしょうか？
クリアーを掛けると、言わばラップを掛けたように状態になるので、エフェクト顔料の効果は弱まってしまいます。クリアーを掛けないのが一番ですが、どうしても必要な場合は、クリアーをできるだけ薄くする、また、顔料を多めに使用する…などで対処する以外ありません。

Q147. アブソルバンをアクリル兼用の麻キャンバスに塗って使用できますか？

A147. アブソルバンは、アクリルベースの下地塗料です。油彩専用キャンバスには使用できませんが、油彩・アクリル兼用キャンバスには問題なくお使い頂けます。

Q148. アブソルバンをパネルに塗布する場合、綿布などを貼る方が良いでしょうか？

A148. 綿布は、必ずしも必要ではありませんが、綿布を貼る方が、きれいに仕上がるでしょう。パネルに直接塗布することも可能ですが、パネルには吸収性があり、アブソルバンの糊成分が吸収されてしまいます。アブソルバンは、吸収性を高めるため、糊成分を少なくした製品ですので、パネルに直接塗る場合は、糊成分がより少なくなってしまうので、塗膜が脆くなる可能性があります。パネルに直接塗布される場合は、水で薄めたグロスメディウムなどで、軽く目止めされた方が良いでしょう。

Q149. アクリル作品をサンダーでヤスリ掛けしても問題ありませんか？

A149. アクリルでは、普通に使われる技法です。程度問題ではありますが、画面が十分に乾燥していれば特に問題ございません。ヤスリ掛けすることで画面に凹凸が出来ますので、加筆する場合、食いつきがよく、むしろ良好でしょう。

Q150. アクリル色彩のビニール感にどうしても馴染めません。色味を”重く”する方法はありますか？

A150. 油絵具の糊剤である乾性油の屈折率は、他の絵具の糊剤(例えばアクリル)よりも顔料に近く、同じ顔料を使った場合でも、油絵具の方が、より透明感のある絵具となります。アクリル絵具は、油絵具に比べると、若干不透明感があり、これが、色の”軽さ”に繋がっています。油彩画面の重厚感、糊成分の違いに起因するものですので、油彩と同等の”重さ”を求めることは難しいでしょう。透明感がある=深みのある色調=重厚感がある。

Q151. アクリル絵具の乾燥を遅くするため、メディウム(リターダー)を使用していますが、透明性が増しすぎて下の色が透けてしまいます。他に乾燥を遅くする方法はありませんか？

A151. 残念ながら、アクリル絵具の乾燥を遅くするには、リターダーのようなメディウムを併用する以外にございません。絵具をリターダーで薄めることとなりますので、おっしゃるように、透明感が出てしまいます。乾燥が速いのはアクリル絵具の特長で、通常は、この乾燥スピードを活かした制作方法が採られています。リターダーは、乾燥遅延メディウムですが、描画時に常用するメディウムというより、ぼかし、グラデーション、シルクスクリーンなど、用途を限定して使われるメディウムと考えた方が良いでしょう。

Q152. メディウム(リターダー)を使用した画面にサンダーを掛けると、ベロベロになりました。メディウムが原因でしょうか？ 強固にする方法はありますか？

A152. リターダーには、保湿剤(グリコール類)が配合されていて、その効果で乾燥遅延となる訳です。グラデーションなど、薄く描く場合にはそれほど気にする必要はありませんが、厚めに塗布すると、保湿剤が完全に蒸発するまで結構時間がかかります。一般的な感覚では乾燥していると思っても、実際には内部が乾燥していないことが多々あり、その状態で、サンダーを掛けた場合、おっしゃるように、上皮が剥けるようなベロベロの状態になると考えられます。

基底材

アワガミファクトリー

(Q 153 - 161)

Q153. 和紙の上に油彩を使った場合の耐久性は？

A153. 耐久性、保存性に一番左右するのは PH 値(極端な酸性値を示すと経時変化が促進される)であるため、油彩自体の利用は耐久性には影響しないと考えられます。

Q154. 機械抄きに必要パルプを入れた場合に経年劣化は起こりますか？

A154. 仕上がりの紙が中性であればパルプの混抄による劣化の大きな影響はないと考えられますが、木材をパルプ化する製法によってリグニン(木材繊維間の細胞間膜)が多く残っている場合は変色や劣化の原因となりやすいです。仕上がり紙が中性であれば、物理的には、短繊維の木材パルプの混抄紙より、繊維の長い和紙の主原料が主成分の紙の方が耐久性はあります。シミの発生については、カビ等の影響が考えられ保存状態が問題の場合が多いですが、そのカビの発生元が抄造時であるのか、保存場所や状態にあるものかの検証は困難です。

Q155. 鉛筆等の描画に向いている和紙は？

A155. 描くための画材が何でも問題ないが、和紙の多くは表面強度が弱いので、摩擦を要する技法(消しゴムや擦り)を使う場合は毛羽立ちが考えられます。その点では、ドーサ等のコーティングをしてあるものや短繊維の原材料を使われている和紙を選ばれることをお勧めします。

Q156. 高知麻紙の代用が可能な紙はありますか？

A156. 現在芋麻を原料の一部に使った麻紙を開発中。ただ風合いとして高知麻紙の代用品ではなく、阿波和紙独自の個性をもった風合いとなります。麻紙に期待される資質として強度が求められているのだと思いますが、その点では楮で充分対応出来るのではないかと、製造側では考えています。

Q157. 鳥の子紙はどうしてドーサしなくて良いのですか？

A157. 「鳥の子」を銘打つ製品は多用にあるので特定できないが、特に機械抄きの鳥の子紙は、あらかじめサイジングされて製品化されているものが多いと思われる。

Q158. 楮、三椏、雁皮の他に原料の種類はありますか？

A158. 阿波和紙では、現代の多様な用途の要望に応えるため多くの繊維を使います。木材パルプはもちろん、麻、竹、コットンなどを用いた製品も作ります。

Q159. 葉っぱや雑草でも紙を作れますか？

A159. 植物繊維は何でも紙になります。植物繊維は水の中で互いに絡み合う性質があるためです。しかし用途に適した繊維の性質を有しているかどうか、原料の安定供給が可能かどうかということから、現在使われている原材料が淘汰され残っているのだと思われます。

Q160. 泥間合紙とはどのような紙ですか？

A160. 水に溶いた泥（土）の上澄みを漉き舟に加えて漉いた、兵庫県の「名塩紙」とも言われている和紙です。泥が入ることで紙の目詰りを効果で滲みにくく墨裏抜けしにくく、滑らかな筆記特性と、湿度の影響を受けにくいとされています。

Q161. 大きいサイズの箔打ち紙を買うことは出来ますか？

A161. いわゆる箔打ち紙より大きなものを探しているということであれば、画材店にある一般的な雁皮紙で代用が可能です。

ホルベイン画材株式会社

(Q 162 - 165)

Q162. スペインの画家である、ホアキン・ソローリャさんが使っていたキャンバスが麻袋のようなとても分厚い荒目のキャンバスを探して欲しい。丸栄ガクブチに問い合わせると生産中止と言われた。なぜ、生産中止になったのか？また、麻袋を生地に代用する場合、下地材は何を塗ればいいのでしょうか？

A162. 極荒目生地を取り扱う国内のメーカーは限定されている。2015年に多種のキャンバスを取り扱う日本画材工業（フナオカ）が倒産してから入手は難しくなった。海外のキャンバスメーカーの中でも極荒目を取り扱うところもあるので、今後、入手（輸入）できるかを検討していきたい。麻袋を生地として代用するのは次の2点の理由によりおすすめできない。①織り目が荒く、目止め剤が定着しない。②ネップ（糸くず）が多く塗料を塗っても綺麗な表面にならない。キャンバス用の麻（亜麻）は織目の密度・ネップの除去等、絵画用に最適に織られている。画材店以外で流通している麻を使つての自作は、購入前の見極めとネップ取りの手間で大変難しい作業となる。

Q163. 紙の上に油絵具を使用しても大丈夫ですか？

A163. パルプやコットンが原料の洋紙は油に弱く、コート処理されていない洋紙に油彩を塗ると、油分が裏側に突き抜けてしまう。耐久性・保存性も殆ど無いので、油彩画には適していない。キャンバスペーパーは、油分を跳ね返す為の塗料（アクリル樹脂等がベース）が塗布されており油彩を描く事は出来るが、保存性はキャンバスよりも低い。練習・習作用としてなら、キャンバスペーパーはおすすめ出来る。マルマンからは「フィゲラス」、ミューズからは「ニューキャンバスペーパー」の商品名で油彩が描ける紙が出ているので、一度、試してみると良い。持ち歩きやすい、軽いという事で紙がご希望であれば、板紙にキャンバスを貼り付けた「ポールドキャンバス」や、板紙にエンボス処理をして油彩を弾く塗料を塗った「アミアントカルトン」（いずれもホルベイン製）という商品もある。キャンバスペーパーよりは、耐久性が高いのでこちらもお勧めできる商品である。しかし、保存性という観点からは、紙ではなく、亜麻を木枠に張ったキャンバスを使用する事を推奨する。お金と時間を掛けて作った作品を保存する事も忘れずに、創作に取り組んで頂きたい。

Q164. 水張りについて質問です。既に水張りされているような商品はありますか？

A164. 画材店ではオーダーメイドで、購入した紙・パネルを水張りしてくれるところはあるが、最初から紙をパネルに張ったものは、次の理由から商品化されないのが現状である。

①商品を保管・移動時に商品が破損しないように、専用のケースなどの包装資材を作る必要がある。②全て手作業になるため、①のコストと合わせて完成品の販売価格が非常に高くなる。皆さんに少しでも安く買って頂けるように、パネル・紙を分けて販売しているとも言える。時間・手間は掛かるが、頑張って水張りをしてください。

ミューズの公式HPに、水張りの方法を詳しく紹介しているので、ご参照ください。

http://www.muse-paper.co.jp/page7/muse7-5_2.html

Q165. 細目のキャンバスを張っていると破れてしまった。丈夫なキャンバスはありませんか？
また、品質の見分け方についても教えてほしい

A165. 細目は麻の糸が細いので、中目・荒目よりは引っ張り強度が弱いので注意が必要である。

キャンバスを張る時の注意点として、最初からあまりテンションを掛けないのが上手く張るコツである。手張りの場合は、最後の四隅を張る時に途中よりやや強めに張るだけで画面がピンと張ったキャンバスになる。最初から目一杯の力でプライヤーで引っ張って釘を打っている人を多く見かけるが、破れるのはこれが主な原因である。これを知っておくだけでキャンバス張りが楽に、手早くなるので覚えておいて欲しい。

品質の見分け方についてだが、糸の織り方と、塗られている塗料の材料で品質が決まる。

①糸の織り方には2種類あり、1本の糸をそのまま織る「単糸（ツツ）織り」と、2本の糸を撚って織る「双糸（リツ）織り」がある。後者の双糸織りの方が強度は高いが高価で、普及価格帯のキャンバスには殆ど使われない。双糸織りは単糸織りよりもキメが細くなり、なめらかな表面となる。

②塗料については、油彩塗料を塗った油性キャンバスの方が品質が高い（油彩に適性が高い）。油彩絵具と同じオイルやホワイト顔料を用いた油性キャンバスは、油彩絵具との相性も良く、固着力も高いので高品質と言えるが、油彩塗料は乾燥に時間が掛かるため高価になる。

ご予算次第となるが、手頃な価格のキャンバスで品質の違いを見たい時は、生地の厚いキャンバスの方が、耐久性の高い、（より高品質な）キャンバスと言える。

マルオカ工業株式会社

(Q 166 - 171)

Q166. パネルと木枠ではどちらが描きやすいですか？

A166. 現在木枠を使用して従来の方法で製作をしておりますが、回りの友達はパネルに画布を貼り込んで製作をしている人も多いとのこと。どのような違いがありどちらが良いかとのこと質問でした。またどちらが長く作品を保存できますかとのこと心配でした。弊社からのご回答としては、支持体の種類は作者の制作方法と相性の良いものを選定する必要があるのではないのでしょうか？とお伝えしました。作風や使用する画材、また描画方法などその課程で作品が最も生える支持体を探求していただくようお話ししました。また保存の観点からは支持体の種類によって保存性を気にするよりも、これと決めた支持体にはどの部分に気をつけて画材選びをすることが作品の保護につながるかを作品製作と平行して考える必要があるとお伝えしております。

Q167. パネルに綿布を貼りこんで製作をしていますが直接貼りこんで大丈夫ですか？

A167. 授業でご指導いただいているように使用する糊、(保存の観点から防腐・防カビなどがほどこされたもの)張り込む前の下地作りなど、注意していただく点はいくつかございますが大丈夫です。綿布を下地として使用することでしたので、後にパネルから剥がしとることはないこと前提でのご返答となりましたが、貼り込みの際の糊の選定、貼り込む木製パネルとの相性を考えながらしっかりと貼り込んでいただくようお伝えしました。

Q168. 綿布に直接絵を描けますか？

A168. 弊社の天竺綿布の利用についてのご質問でした。京都造形芸術大学では教材としてご利用いただいておりますが、その中で木製パネルにベタ貼りした天竺綿布に濃い目の膠を用いた下地作りをご指導いただいているようです。レシピや方法などは研究生を交え説明いたしました。

Q169. 木枠を使っていますがパネルを使う人のほうが多いですか？

A169. 現在、京都造形では青木教授の講義で木製パネルを使用することが多いようですが、製作者の方の選択だと考えます。描画する際の画面の状態や画面から感じる筆圧など、作者が描きたい作品にあった支持体を見つけてもらえることより納得の作品が仕上がるのではないのでしょうか。近年、確か作家の方たちがキャンバス（特に油彩）から離れているのは感じます。より自分の作風が行かせる支持体、相性のよい支持体をお探しいただきたいです。

Q170. ユニペーパーって何ですか？

A170. ユニペーパーとは京都造形芸術大学とマルオカ工業で協同開発している新しい支持体です。来年度以降大学の教材としての使用をご検討いただいている期待の商品です。御校の森本教授も同じ種類の支持体を利用して2年連続受賞されているように紙とは違った表現のできる画材です。詳しくはパンフレットを渡して青木教授をご紹介いたしました。

Q171. 製作して絵具がのると作品自体が重くなるので軽い材料を選ぶのですがどれがいいですか？

A171. 作品が重くなるからといって軽い支持体を選ばれるのは大変危険です。沢山の絵具を使う作家の場合、その重さに耐えうる支持体のご用意をお勧めいたします。軽い材料でできた木枠(木製パネル)はもちろん持運びなどの面では便利かもしれませんが。ただ、軽い材料=弱い材料、重い画材=耐えうる頑強さだとお考えください。仕上がった作品が変形したりゆがんだりしてしまうことを防ぐためにも支持体(画材)の選択には充分注意しましょう。

マルマン株式会社

(Q 172 - 175)

Q172. 以前買ったボード状の紙に茶色のしみがたくさん出てきました。なぜですか？

A172. ボードは糊を使って、板紙と画用紙を貼りつけています。経年で糊が原因で、紙表面にしみ状の物が出てきている可能性があります。紙表面に黒点がまれに出ることがありますが、原料のごみが取り切れず、紙が製造されてしまった場合が多いです。この場合は、使用上の問題はありせん。

Q173. 展示会に出す素描やドローイングにスケッチブックの紙は適していますか？

A173. 作製される作品により、専門紙を選択されることをお勧めします。マルマンの画用紙は汎用性が高い紙ですので、広く浅く使えると考えて下さい。美術大学の学生様が作品として使用する場合は、水彩なら「水彩紙」、デッサンなら「木炭紙」「クロッキー紙」などがやはりよいと思います。紙色や紙肌など、表現したいものにより、紙を選択していただきたいので、普段から色々な紙に触れていただきたいと思います。

Q174. エスキースブックの紙が、何年か前から変更されましたが、以前の紙の商品を買うことはできますか？

A174. エスキースブックは製紙会社ブランドの紙を供給してもらい、製品化しております。このエスキースブックは紙肌を重視して紙を選択しております。製紙会社の紙ですので、廃番になりますと、紙の銘柄を変えることとなります。なるべく近い仕様、肌目の紙を代替としておりますので、お使いのユーザー様には、ご理解いただきたくお願いいたします。もう少し厚い紙が良いとのこと意見をいただきましたので、今後の商品開発の参考に致します。

Q175. 洋紙(画材系)はどれくらいもちますか？(保存性)

A175. 基本中性紙仕様であれば、複数年は描画できる状態を保つことができます。条件として、保管環境が良いことが前提となります。

- ・紫外線(直射日光や蛍光灯など)が当たらない
- ・高温多湿の場所で保管しない
- ・紙面が表に出て、空気にさらされていない

以上の環境が条件です。

保存性(劣化)で最も早く出るのが、紙色の褪色(色あせ)です。主に黄ばみが出ます。

製紙会社 2 社に問い合わせましたところ、紙そのものの消費期限を設定することはなく、一般的に生産後、1 年間は生産時に近似の状態を保っていると考えるとのことでした。劣化は少なからず進みますので、長く保管したい場合は、保管状態に留意いただきたいとのことでした。

*この質問について、当日「10 年以上はもつ」と私見を述べましたが、製紙会社からは同様の回答は得られませんでした。弊社では紙の保存性に関するお客様からのクレームをほぼ受けたことがなく、保管条件が良ければ 10 年程度は問題ないと考えます。

Q176. 水彩紙と版画用紙の違いは何ですか？

A176. 一言では難しいので弊社 HP より引用させていただきます。

版画用紙の特徴と選び方

- (1) 紙そのものの質感、表現を豊かにしてくれる紙。
- (2) 吸水しやすく、吸湿が均一な紙。
- (3) 吸湿性がありながらしかも水に強い紙。
- (4) 吸湿による伸縮の少ない紙(特に刷り重ねていく場合、伸縮の割合が多いとアタリが狂いやすいため)
- (5) エッチング用にはデリケートなイメージを伝えるため、表面が細かく、ふっくらして絹を植毛したような風合いの紙が良い。
- (6) リトグラフ用には表面がより強く、少し荒く、木綿のような感触の紙が良い。
多色リトグラフの場合は印圧に充分耐えられる様な肉厚のある紙が良い。
- (7) 水を使うため、防黴が施され保存性の良い中性紙が理想的である。

水彩紙の特徴と専用紙としての条件

- (1) 絵具ののりが良く、適度に滲み止めがしてある。
 - ・水彩絵具ののりが良いということは、紙面の状態が均一で毛羽立ちや繊維のからみ合いにむらがなく、かつ適度な滲み止めが施されている状態を指します。
 - また、滲み止めが強すぎると逆に絵具をはじく傾向が現れます。この場合、水を含ませた刷毛や太い筆などで紙の表面を何度か洗うようにしてから布で拭き取って使うと、絵具ののりが良くなります。通常、湿った用紙は完全に乾かしてから使います。
- (2) 絵具の発色が良い。
 - ・発色性は特に透明水彩の場合問題になることで、その差は組成繊維の純度と表面の凹凸、滲み止めの強さと関係があります。
 - ・組成繊維の純度は、無理に薬品で晒した白い繊維よりも適度に晒された綿繊維などのアルファセルロース※1 の多いものが良いとされています。
 - ・紙の表面に凹凸がある用紙ほど筆に絵具をたっぷり含ませて塗ることができますが、凹凸の少ない用紙は絵具の落ち着きどころがないのであまり多く塗ることができません。従って※1 荒目の用紙ほど発色が良いということになります。
 - ・また、表面に強く滲み止めを施した紙は多少絵具をはじきますが、発色は良くなります。
- (3) 紙の表面が強く、強いタッチで描いても剥けがない。
 - ・重ね塗りをする場合や強いタッチで描く場合、紙面が弱いとポロポロと垢が出るように繊維が剥けて絵具がむらにのることになります。これでは水彩紙として落第なので紙面強度の高い紙が求められます。

(4) 乾燥後、波を打ったようなひずみがなく水濡れ強度が高い。

・水濡れ強度の点は前項で記した剥けの問題と関連がある他、紙は水分を吸収すると伸び、かつ弱くなり乾燥後波打ちの状態が残るという特性を持っています。一般的には波打ちの程度は厚い紙ほど少ないので、なるべく厚い紙の使用をお勧めします。

(5) 透明水彩絵具の使用を前提に抄造し、表面の表情が豊かな紙。

(6) 水を使うため、防黴が施された保存性の良い中性紙が理想的である。

※1 セルロースからなる繊維を水酸化ナトリウム水溶液に浸し、不溶解部分を水で洗って得られるセルロースの名称。

※2 水彩紙の紙肌は一般的に細目、中目、荒目などと呼んでいますが、これはあくまでも感覚的な分け方にすぎず、同じ表記でも製品により差があります。

このように紙に刷る版画と描く水彩では、同じような適性を持った部分と全く異なった部分があります。水彩紙に版画、版画用紙に水彩と双方向での使用も個人の技法によるところが大きいです。十分な適性をそれぞれに持ち合わせている場合もあります。

Q177. 水彩絵の具とペン両方に合う紙について教えてください。スケッチブックと紙両方で

A177. 基本、水彩紙であればどちらも使用は可能ですが、水彩紙は紙の目があります。

この目も荒目が好きな方、細目が好きな方いろいろです。ご自分の技法に合わせて、選んで頂ければ良いと思います。逆にペンやマーカーが適した紙から水彩絵具ののりが良い紙を探すとすると「BB ケント〈英〉」「クラシコ5〈伊〉」等ポタニカル（植物画、細密画）で好まれている紙に適正があるのではないかと思います。また、日本でスケッチブックの形状になっていない紙も多く存在しますので、各小売店さんやメーカーさんに尋ねて頂ければ、サンプル等の提供が出来るものもあります。是非自分に合う「紙」を見つけてみてください。

Q178. 和紙の修復は和紙で行われますが、洋紙の場合はどうやって保存されていくのでしょうか？

A178. 現在日本でも漸く保存に対して注目を集めるようになって来ました。劣化を少しでも遅らせるために、描いた(製作した)作品を保存額装や保存箱に保管することで作品寿命を延ばすことが出来るようになりました。

作品保存での注意点としては、①温度・湿度/一般的には温度 18℃～22℃、湿度 50～70%ほどで変化が激しくならないように維持 ②照度/油絵 150 lx以下、版画 80 lx以下、水彩画 100 lx以下 ③有害ガス ④生物学的な要因/虫や菌による損傷リスクを避ける
何れも保存箱で、ある程度の効果を発揮致します。

Q179. 保存箱とはどういうものですか？

A179. 「ミューズ作品保存箱」は保管資料に対して安全なアーカイバル素材※1 で作られています。

空気層を持つ段ボール形状で、空気層が外気の変化に対する緩衝効果を持ちます。紫外線などの光から護ることを始めとして、上蓋内側に添付した調湿紙※2 が保管資料の吸湿による伸縮を和らげ、伸縮疲労が招く酸性紙化及び黴の発生を遅らせます。あわせて保管資料から発せられるガスや流入するガスを吸着し、資料等を護ります。

※1 長期保存に適した素材

※2 紙の中に調湿材（湿度に対して敏感な無機粉体）を抄き込んだ中性紙です。外気温が変動すると、庫内や容器内の相対湿度は急激に変化し、紙資料は水分の吸放出を繰り返します。この繰り返しが劣化につながります。調湿紙は庫内の紙資料よりもすばやく吸放湿し、相対湿度を安定させます。

筆・刷毛

株式会社中里

(Q 180 - 193)

Q180. 円山派の先生で、分厚い刷毛のようなものを使っておられました
日本画用として売っていますか？

A180. 言葉だけではどのような筆かはわかりかねますが、イメージ的には染色用のスリ込刷毛か、竹描筆が近いように思います。現物を見せて頂けるとご提案が出来ると思います。

Q181. 人工岩絵具を扱う際、刷毛や筆の毛が切れます。どうすれば良いでしょうか？

A181. 岩絵具の番手が小さく（5番・6番など）粒子が荒いものを使用すると、どうしても毛は切れやすくなります。例えるなら、荒いサンドペーパーの上で、筆・刷毛をこすっているようなものです。ある程度は消耗品と考え、筆・刷毛を取り換えながらご使用下さい。毛が切れてしまった筆も、違う用途では使用することが出来ます。

Q182. 黒豚唐刷毛のもう少し厚めのものはありますか？

A182. 黒豚唐刷毛は、京都造形大学との共同研究で、ほかすのに最適な厚さ、毛丈で製作しております。厚いものが必要であれば、特注にてご対応致します。

Q183. 中里さんの筆の中で、一番細い線が描けて含みの良い（線が切れない）筆はどれでしょうか？
水彩・油彩それぞれで教えて下さい

A183. 長い線を描くためには、含みの良いことが条件となります。その上で、細い線を描かれるのであれば、水彩（水系絵具）では、たっぷり含んで先の細い「線描筆」が最も適しています。馬毛で出来た筆の腹の部分にたっぷり絵具を含ませ、鬣毛の先で線を引くと長くて切れない線を描く事が可能です。油彩の場合は、絵具の状態にもよります。オイルで水彩のような粘りの少ない状態であれば、水系絵具同様「線描筆」を使用することも可能ですが、粘度の高い状態で描くのであれば、毛丈の長い筆を選ばれるのが適しています。当社の筆であれば、「sign-sp」や「SPERANZA S-Script」をご選択ください。「sign-sp」はコリンスキー毛を使用し、しなやかに描くことが出来ます。「SPERANZA S-Script」はナイロン毛を使用し、切れにくく長い線が描けます。

Q184. 書道筆の様な大きい丸筆はありますか？絵具をたっぷりおきたいです

A184. 絵画の筆で一番大きな丸筆は連筆となります。残念ながら最も大きな書道筆の様な太い筆はございません。また、丸筆ではありませんが、絵具をたっぷりおきたいと思われるのであれば、連筆も使い方によっては使用できます。絵具含みという点においては、同様サイズの刷毛よりも適しています。

Q185. 油彩用に日本画の刷毛を使っています。他におすすめはありますか？

A185. 日本画用の刷毛は、柔らかく、含みが良いので、油彩の上塗りに使用される方も多いです。下地を作るのであれば、豚毛やナイロン毛の刷毛やジェットブラシをおすすめします。ナイロン毛の刷毛は、柔らかく刷毛目も出にくいので、鏡面仕上げ下地に適しています。また、オックス刷毛は含みも良く、しなやかで力があるので油彩刷毛としてよく使用されます。

Q186. 筆・刷毛の洗浄後、乾かした後に毛先が固まってしまう原因は何でしょうか？

A186. 十分に洗浄したつもりでも、筆の根元に絵具や膠分が残っていることがよくあります。根元から絵具をもみだすようにしっかり洗浄することをお勧めします。

Q187. 洗浄液ではなく、石鹼だけで洗浄しても大丈夫ですか？

A187. 石鹼は筆に残っている必要な脂分も落としてしまう可能性があります。そのため、石鹼のみで洗浄すると毛がパサパサになり、まとまりが悪くなったり、絵具含みが悪くなる原因となります。専用の洗浄液を使用するか、オリーブオイルなどを含んだ石鹼を使用してください。もしくは、石鹼で洗浄した後、動物用リンスを使用し、毛をコーティングしてあげると、筆が長持ちします。

Q188. 超極細筆の洗浄の仕方

A188. 超極細筆は、毛の量も少ないので、少し毛が切れただけでもまとまりが悪くなります。基本的には、他の筆同様、優しくもみ洗いし、しっかり絵具を落として毛先をそろえた状態で毛先を下にして乾燥させて下さい。

Q189. 山馬刷毛について。その他の刷毛との違いは？

A189. 山馬刷毛以外の刷毛との大きな違いは、絵具を含ませて使用するか、乾いた状態で使用するかということです。山馬刷毛は、乾いた状態で絵具を引っ張りばかす用途で使用します。また、わざとかすれた感じを出すのに、山馬刷毛を使用することもあります。

Q190. 洗い方について。シャンプーは使用するべきでしょうか？

A190. 油彩筆の場合、シャンプーや石鹼、合成洗剤などを使用される方も多いと思います。絵具の落ちは良いし、洗浄時間も短くて済みます。しかし、筆に残してある、毛の必要な脂分まで落ちてしまうこととなりますので、洗剤を使用して洗浄した後は、動物用リンスを使用し、毛をコーティングしてください。その方が、筆が長持ちします。

Q191. 油絵の制作にも日本画の筆を使用しても大丈夫ですか？消耗の度合いは異なりますか？

A191. 油彩画に日本画の筆を使用する事自体には、問題はございません。ただ、もともと水系絵具で使用することを想定しておりますので、リムーバーなどの強い溶剤に漬け置きすると、接着剤が溶解し、毛抜けを起こすことがございます。強い溶剤は避けて頂く方が無難です。また、油画の場合、支持体の摩擦が大きいので、紙や絹に描くことに比べると、筆の消耗は早くなります。石油系洗浄液も、日本画筆の毛に良くない影響を与えますので、消耗は早くなります。

Q192. 筆の選び方について。勢いのある線を描くにはどうすればいいですか？

A192. 鹿毛などの硬い毛の筆を使用し、大胆に描かれてはいかがでしょうか？実際に線の伸びや滲み具合は、支持体とも大きく関係してくると思いますので、筆だけでなく、支持体や膠の状態も色々とお試してください。

Q193. 根元に残った墨の処理は？

A193. 膠分が筆の根元で固まると、毛先がそろわない原因となりますので、ぬるま湯を使用し、しっかりとみ洗いしてください。

株式会社名村大成堂

(Q 194 - 195)

Q194. ぼかし筆より大きいものはありますか？

A194. ぼかしには隈取筆がおすすめです。既成の商品以上の大きさであれば書道筆でも一部適したものが
あります。油彩系であれば、扇型（FAN型）の筆もおすすめです。

Q195. ナイロン毛は日本画で使用しても大丈夫ですか？耐久性は天然毛と比べてどうですか？

A195. ナイロン毛は摩耗に対しては強いですが、カールしてしまう等、クセがつきやすい特徴がありま
す。

ホルベイン画材株式会社

(Q 196 - 197)

Q196. マスキングインクに向けた筆はありますか

A196. マスキングインクは注意しないと筆先がすぐに乾燥して固まってしまいます。固まってしまったマスキングインクを取るには、専用の除去液が必要となります。また、アクリル絵の具同様アルカリ性で、天然の毛を傷める可能性があります。あまり高価な筆は使わず、安価な合成繊維の筆をお勧めします。

Q197. マングースに代わる筆を知りたい

A197. マングースは中硬調の筆として人気がありましたが、ワシントン条約規制により輸入が出来なくなりました。近い描き味の筆として、ホルベインではリセーブルNo.1100 シリーズ（バジャー、合成繊維混毛）、BGシリーズ（ウォーターバジャー）を発売しています。他にドイツ・ダヴィンチ社のブラックセーブル筆もお勧めできます。